

283

47



0051297001

0051297-001

283-47

広島高等学校一覧

広島高等学校

第4-7, 9-11年度 (昭和2年4月至3
年3月-昭和5年4月至6年3月, 昭和7年
4月至8年3月-昭和9年4月至10年3月)

昭和2-9

AHM

283

47

廣島高等學校一覽

自昭和二年四月
至昭和三年三月

283-47

廣島高等學校一覽

第四年度

(自昭和二年四月
至昭和三年三月)

目次

第一章	沿革畧	一
第二章	學年曆	六
第三章	學則	八
第四章	總則	八
第五章	學科課程、教授時數	八
第六章	學年、學期、休業	一二
第七章	入學、在學、轉科轉類	一四
第八章	進級、卒業	一七
第九章	休學、退學、轉學	一八
第十章	懲戒	二〇



第八章 授業料

二〇頁

第九章 制服

二二頁

第十章 寄宿寮

二二頁

第十一章 圖書、器械

二四頁

第四細則

一 學則施行細則

二六頁

第一章 生徒心得

二六頁

第二章 入學、在學、轉科轉類

二八頁

第三章 隨意科目、選擇科目

三一頁

第四章 遲刻、缺課、缺席

三一頁

第五章 成績考查

三二頁

第六章 授業料、寄宿料

三六頁

第七章 通學

三七頁

第八章 服裝

三八頁

第九章 學級總代

四三頁

二 校務分掌規程

四四頁

三 文書處理規程

五二頁

四 文書保存規程

五五頁

五 宿直勤務規程

五八頁

六 物品會計規程細則

六二頁

七 圖書閱覽室規則

六九頁

第五職員

一 職員

七一頁

二 學級主任

七七頁

三 事務分掌

七九頁

第六生徒

八二頁

一 生徒氏名	八二頁
二 卒業生氏名	一〇七頁
三 在學者本籍府縣別表	一一四頁
四 入學者學歷別表	一一六頁
五 生徒年齡別表	一二七頁
六 卒業生大學進入表	一一八頁
第七 關係法規	
一 高等學校令	一二二頁
二 高等學校規程(抄)	一二六頁
三 文部省直轄諸學校官制(抄)	一四五頁
四 文部省直轄諸學校職員定員令(抄)	一四七頁
五 陸軍現役將校學校配屬令	一四八頁
六 官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程	一五一頁

七 高等學校高等科入學資格試驗規程	一五四頁
八 專門學校入學者檢定規程	一五六頁
九 文部省直轄學校外國人特別入學規程	一六五頁
十 臺灣又ハ朝鮮人ニ外國人特別入學規程準用ノ件	一六七頁
十一 高等學校教員規程	一六八頁

附 錄

一 廣島高等學校々友會々則	一七九頁
二 廣島高等學校同窓會規約	一八五頁

廣島高等學校一覽

第一 沿革略

大正十七年

十二月十日

勅令第五百一號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中ニ改正ヲ加ヘ本校ヲ設置セラレ同五百二號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ校長一人教授九人書記四人ト定メラル

同月十三日

第三高等學校教授十時彌本校々長ニ任セララル

同月十四日

事務所ヲ文部省内ニ置キ事務ヲ開始ス

大正十三年

一月十六日

事務所ヲ廣島市皆實町本校内ニ移ス

二月二十五日

本校本館ノ新築成ル

三月三十一日

本校學則及學則施行細則ヲ制定ス

四月十二日 入學式ヲ舉行シ生徒二百人ヲ入學セシム
同月十四日 授業ヲ開始ス

同月二十八日 勅令第九十八號ヲ以テ文部省直轄諸學校定員令ニ改正ヲ加ヘ本校職員定員ヲ校長一人教授十六人書記四人ト定メラル

五月三十一日 皇太子殿下御成婚奉祝式ヲ舉行ス
十二月四日 寄宿寮ノ新築成ル

大正十四年

一月七日 寄宿寮ニ生徒七十七人ヲ收容ス

同月十六日 博物教室ノ新築成ル

三月二十三日 學則及學則施行細則ノ一部ヲ改正ス

同月二十八日 生徒百八十四人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式ヲ舉行ス

同月二十五日 勅令第四百四十二號ヲ以テ文部省直轄諸學校定員令ニ改正ヲ加ヘ本校

職員定員ヲ校長一人教授二十四人助教授一人書記五人ト定メラル
五月十日 天皇皇后兩陛下御結婚滿二十五年奉祝式ヲ舉行ス
八月十一日 物理教室ノ新築成ル
十二月八日 圖書室ノ新築成ル
同月十二日 照宮成子内親王殿下御命名奉祝式ヲ舉行ス

大正十五年

二月十三日 銃器庫ノ新築成ル

四月八日 生徒百七十八人ノ入學ヲ許可ス

是ニ於テ生徒總數五百五十五人トナリ全學級完成ス

同月十七日 入學式ヲ舉行ス

五月十三日 化學教室ノ新築成ル

同月二十六日 皇太子殿下本校ニ行啓アラセラレ文部省專門學務局長粟屋謙、學校

長十時彌、教授大谷正信、堀江久勝ニ單獨拜謁ヲ賜ヒ學校長言上書

並學校一覽ヲ奉呈ス更ニ教授下田卯市以下二十八名ニ對シ列立拜謁
ヲ賜ヒ次イテ運動場ニ成ラセラレ文、理科生徒對抗ノ蹴球競技ヲ台
覽アラセラレ職員生徒一同ノ萬歳三唱裡ニ御機嫌麗ハシク還啓遊バ
サル

六月十日 故大勳位李王殿下國葬儀ニツキ休業ス

同月二十五日 官舎六棟ノ新築成ル

七月五日 勅令第二百四十九號ヲ以テ文部省直轄諸學校定員令ニ改正ヲ加ヘ本
校職員定員ヲ校長一人教授三〇人助教四人書記六人ト定メラル

十月二十二日 長慶天皇御在位御親告ノ儀行ハセラル、ニツキ休業ス

同月同日 書庫ノ新築成ル

十二月廿五日 大正天皇崩御皇太子殿下踐祚昭和ト改元セラル

午前九時奉悼遙拜式ヲ舉行ス

昭和二年

一月七日 柔劍道場ノ新築成ル

同月十日 午前九時朝見式ノ際群臣ニ賜リタル勅語ノ奉讀式ヲ舉行ス

同月十一日 雨天体操場ノ新築成ル

同月三十日 講堂ノ新築成ル

二月七日 大葬儀ニツキ奉悼ノ爲休業ス

午後十一時運動場ニ於テ遙拜式ヲ舉行ス

同月八日 大葬儀ニツキ奉悼ノ爲休業ス

三月十日 第一回卒業生百五十二名ニ對シ卒業證書ヲ授與ス

同月十五日 勅令第二十五號ヲ以テ休日ニ關スル規程改正ニ伴ヒ本校學則第三章

第三條ヲ改正ス

四月八日 生徒百九十四名ニ對シ入學ヲ許可ス

同月十六日 入學式ヲ舉行ス

第二學年 曆

昭和二年

- 四月十二日 始業式
- 同月十三日 第二學年及第三學年授業開始
- 同月十七日 入業式
- 同月十九日 第一學年授業開始
- 同月二十九日 天長節拜賀式
- 七月十四日 第一學期授業終了
- 九月六日 第二學期授業開始
- 同月二十四日 秋季皇靈祭
- 十月十七日 神嘗祭
- 十一月三日 明治節

十一月廿三日 新嘗祭
十二月廿四日 第二學期授業終了
昭和三年

- 一月一日 新年拜賀式
- 同月八日 第三學期授業開始
- 二月十一日 紀元節拜賀式
- 三月十日 第三學期授業終了

第三 學 則

第一章 總 則

第一條 本校ハ大正七年勅令第三百八十九號ニ基キ高等學校高等科ヲ置ク

第二條 本校ノ修業年限ハ三年トス

第二章 學科課程、教授時數

第一條 本校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第二條 文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖書、體操トス

外國語ハ英語又ハ獨語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第三條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概説			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	(三九)	(三九)	(三八)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三三)	(三三)	(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトアルヘシ

第四條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	一

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	(三)四
物理學		三	三
化學		三	三
植物及動物	二	二	(講義)二(實驗)二
礦物及地質	二		
心理學		二	
法制及經濟	二		
圖書	二	二	(二)
體操	三	三	三
計	(三二)二八	(三二)二八	(三二)二八

第三學年ノ數學「二」及圖書「二」ト第三學年ノ植物及動物「講義二、實驗二」トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望

ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル
第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三〇)	(三十一)	(三十一)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコト
アルヘシ

第三章 學年、學期、休業

第一條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 學年ヲ分チテ三學期トス左ノ如シ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三條 休業日ハ左ノ如シ

- 一日 曜日
- 一 本校創立記念日
- 一 天長節 四月二十九日
- 一 夏季休業 七月十五日ヨリ九月五日ニ至ル
- 一 秋季皇靈祭 秋分日
- 一 神嘗祭 十月十七日
- 一 明治節 十一月三日
- 一 新嘗祭 十一月二十三日
- 一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
- 一 紀元節 二月十一日
- 一 春季休業 三月十一日ヨリ四月十日ニ至ル

第四章 入學、在學、轉科轉類

第一條 入學ノ期ハ學年ノ初トス

第二條 本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ品行方正ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ
體格検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者ニ限ル

一 中學校第四學年ヲ修了シタル者

二 他ノ高等學校尋常科ヲ卒業シタル者

三 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

六 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第三條 前條ノ入學志願者各科ニ入學セシムヘキ豫定人員ニ超過スルトキハ選抜試験ヲ行ヒ入學者ヲ定ム

第四條 入學者選抜試験ハ大正八年文部省令第十四號官立高等學校高等科入學者選抜

試験規程ニ依リ中學校第四學年修了ノ程度ニ於テ之ヲ行フ選抜試験ノ外國語ハ英語又ハ獨語トシ志願者ハ隨意ニ其ノ一ヲ選フコトヲ得ルモノトス

第五條 入學志願者ハ入學後修業セントスル科及類ヲ指定シテ願出ツヘシ其ノ指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

文科甲類 英語ヲ第一外國語トスル者

文科乙類 獨語ヲ第一外國語トスル者

理科甲類 英語ヲ第一外國語トスル者

理科乙類 獨語ヲ第一外國語トスル者

第六條 入學志願者ハ所定ノ手續ニ依リ名票、檢定料、寫眞ヲ具ヘ本校ニ願出ツヘシ

第七條 檢定料ハ金五圓トス
既納ノ檢定料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第八條 願ニ依リ退學シタル者退學シタル時ヨリ一箇年以内ニ於テ再入學ヲ願出ツル

トキハ同一學年以下ノ學年ニ限リ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付シ且戸籍謄本及履歷書ヲ差出スヘシ

前項ノ手續ヲ了セサル者ニ對シテハ其ノ入學ノ許可ヲ取消ス

既納ノ入學料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ父兄若ハ之ニ代ルヘキ者ヲ保證人トシ本校所定ノ保證書ヲ差出スヘシ

保證書ノ様式ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十一條 保證人ノ住所、印鑑等ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ

第十二條 保證人死去若ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ第十條ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 入學ノ後ニ於テ轉科轉類ヲ出願シタルトキハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ニ依リ出願スル者ハ其ノ事由ヲ明記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

轉科轉類ニ關スル規程ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十四條 他學校ノ入學試験ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ明記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第五章 進級、卒業

第一條 各學年ノ末ニ於テ生徒ノ學業成績、行狀、勤惰等ヲ考查シ合格ノ者ハ進級若ハ卒業セシメ不合格ノ者ハ原學年ニ留ム

第二條 學業成績ハ日常ノ課業、臨時試験並學期試験ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム
臨時試験ハ課業ノ進度ニ應シ教官ノ見込ニ依リ之ヲ行フ

學期試験ハ各學期ノ末ニ於テ之ヲ行フ

第三條 學業成績ノ考查ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第四條 原學年ニ留メタル者ニハ次學年ノ初ヨリ當該學年ノ全學科ヲ再修セシム

第五條 本校所定ノ課程ヲ履修シテ卒業シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證

族籍

何

年月日生 某

本校所定ノ文(理)科ノ學科ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年月日

番號

廣島高等學校長位勳學位爵氏名印

第六章 休學、退學、轉學

第一條 疾病又ハ已ムヲ得サル事由ニ因リ三箇月以上修學スルコト能ハサル見込ノ者

ニ對シテハ休學ヲ許可スルコトアルヘシ

休學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ疾病ノ爲

ニ休學セントスルトキハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二條 陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若ハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ間休學

トス

第三條 休學ハ當該學年ニ限ル前條ニ依ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 本章第一條ニ依リ休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ課業ニ就クヘシ

本章第二條ニ依リ休學シタル者ハ服役滿期又ハ召集解除後一箇月以内ニ於テ原學年

ノ課業ニ就クヘシ

第五條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保

證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ疾病ニ因リ退學セントスルトキハ願書ニ醫師ノ診

斷書ヲ添付スヘシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 二回引續キ同一學年ニ留マル者但シ本章第二條ニ依リ休學セル期間ヲ算入セス

- 四 引續キ一箇年以上缺席シタル者
- 五 正當ノ理由ナク又ハ届出ヲ爲サスシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
- 六 出席常ナラサル者
- 七 一定ノ期間内ニ授業料及寄宿料ヲ納付セサル者
- 八 第四章第十四條ノ手續ヲ爲サスシテ他學校ノ入學試験ヲ受ケタル者
前項ノ外除名ニ關シテハ隨機ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ
- 第七條 他ノ學校ヘ又ハ他ノ學校ヨリノ轉學ハ之ヲ許サス
- 第七章 懲 戒
- 第一條 校規風紀ヲ紊リ其ノ他生徒タルノ本分ニ背戾スル者ハ之ヲ懲戒ス
- 第二條 懲戒ハ之ヲ分テテ戒飭、停學及放校トス
- 第八章 授 業 料
- 第一條 授業料ハ一學年金六拾五圓トス
- 第二條 授業料ハ左ノ三期ニ分テテ之ヲ徴收ス

第一學期 四月 金貳拾圓

第二學期 九月 金貳拾五圓

第三學期 一月 金貳拾圓

授業料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第三條 既納ノ授業料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第四條 第四章第八條ニ依リ入學シタル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヨリ之ヲ徴收ス

第五條 學期開始後退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徴收ス

第六條 授業料ハ缺席、停學、休學等ノ爲ニ之ヲ免除スルコトナシ但シ第六章第二條

ニ依リ休學シタル者ニ對シテハ授業料徴收期ノ前ニ在リテハ次月分ヨリ其ノ後ニ在

リテハ次學期分ヨリ之ヲ徴收セス

第七條 第六章第二條ニ依リ休學シタル者學期ノ中途ニ於テ課業ニ就キタルトキハ當

該學期分ノ授業料ハ其ノ月分ヨリ之ヲ徴收ス

第八條 本章第六條但書及第七條ノ場合ニ於ケル授業料ノ月割額ハ金六圓五拾錢トス

四 引續キ一箇年以上缺席シタル者

五 正當ノ理由ナク又ハ届出ヲ爲サスシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

六 出席常ナラサル者

七 一定ノ期間内ニ授業料及寄宿料ヲ納付セサル者

八 第四章第十四條ノ手續ヲ爲サスシテ他學校ノ入學試験ヲ受ケタル者

前項ノ外除名ニ關シテハ臨機ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第七條 他ノ學校へ又ハ他ノ學校ヨリノ轉學ハ之ヲ許サス

第七章 懲 戒

第一條 校規風紀ヲ紊リ其ノ他生徒タルノ本分ニ背戾スル者ハ之ヲ懲戒ス

第二條 懲戒ハ之ヲ分チテ戒飭、停學及放校トス

第八章 授 業 料

第一條 授業料ハ一學年金六拾五圓トス

第二條 授業料ハ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徴收ス

第一學期 四月 金貳拾圓

第二學期 九月 金貳拾五圓

第三學期 一月 金貳拾圓

授業料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第三條 既納ノ授業料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第四條 第四章第八條ニ依リ入學シタル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヨリ之ヲ徴收ス

第五條 學期開始後退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徴收ス

第六條 授業料ハ缺席、停學、休學等ノ爲ニ之ヲ免除スルコトナシ但シ第六章第二條

ニ依リ休學シタル者ニ對シテハ授業料徴收期ノ前ニ在リテハ次月分ヨリ其ノ後ニ在

リテハ次學期分ヨリ之ヲ徴收セス

第七條 第六章第二條ニ依リ休學シタル者學期ノ中途ニ於テ課業ニ就キタルトキハ當

該學期分ノ授業料ハ其ノ月分ヨリ之ヲ徴收ス

第八條 本章第六條但書及第七條ノ場合ニ於ケル授業料ノ月割額ハ金六圓五拾錢トス

但シ第一學期分授業料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第九條 第四條乃至第七條ノ授業料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第九章 制 服

第一條 生徒ハ本校所定ノ服装ヲナスヘシ但シ新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ入學ノ日ヨリ一定ノ期間制帽及靴ノ外ハ之ヲ猶豫ス

第十章 寄 宿 寮

第一條 寄宿寮ニ入ラントスル者ハ本校所定ノ書式ニ依リ願書ヲ差出シテ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 寮生ハ規定ノ期日內ニ寄宿料ヲ本校ニ納付シ且食費ヲ支拂フヘシ

第三條 寄宿料ハ一學年金拾五圓トス

第四條 寄宿料ハ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徴收ス

第一學期分 金四圓五拾錢

第二學期分 金六 圓

第三學期分 金四圓五拾錢

寄宿料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第五條 既納ノ寄宿料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第六條 寄宿料徴收期日後ニ入寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヨリ寄宿料徴收期日前ニ退寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヲ徴收ス

前項ノ場合ニ於ケル寄宿料月割額ハ金壹圓五拾錢トス但シ寄宿料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第一項ノ寄宿料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第七條 寮生ニシテ退寮セントスル者ハ其ノ事由ヲ明記シテ願出テ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 寮生ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ種類又ハ症狀ニ依リ外泊若ハ退寮セシムルコトアルヘシ

第九條 寮生ニシテ寮規ヲ紊ル行爲アリタルトキハ之ニ退寮ヲ命ス

第十一章 圖書、器械

第一條 本校所屬ノ圖書類ハ特別ノ規定ニ依ルモノノ外總テ之ヲ文庫内ニ藏置ス

第二條 圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ル者ハ本校職員、生徒及特ニ學校長ノ許可ヲ得タル者ニ限ル

第三條 本校職員ハ所定ノ手續ヲ了シ職務ニ必要ナル圖書ヲ借受ケ之ヲ文庫外ニ携出スルコトヲ得但シ貴重圖書及閱覽室備付ノ圖書ハ之ヲ携出スルコトヲ得ス

第四條 教官室、特別教室又ハ事務室等ニ備付ヲ要スル圖書ハ當該學科主任、各課々長又ハ會計主任之ヲ借受ケ其ノ保管ノ責ニ任スル者トス

第五條 本校所屬ノ學術用標本、器具、機械ハ各所屬教室ニ之ヲ藏置ス

第六條 生徒ハ當該學科擔任教官ノ許可ヲ得テ實習ノ爲圖書、標本、器具、機械ヲ使用スルコトヲ得

第七條 圖書、標本、器具、機械ヲ紛失、毀損又ハ汚染シタルトキハ其ノ損害ノ程度ニ依リ之ヲ辨償セシメ又ハ其ノ修理ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

附 則

本則ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正十三年度ニ入學シタル生徒ニ就キテハ其ノ卒業ニ至ル迄第八章第一條ノ授業料額ヲ金五拾圓第二條ノ授業料分納額ヲ第一學期分金拾五圓、第二學期分金貳拾圓、第三學期分金拾五圓及第八條ノ授業料月割額ヲ金五圓トス

第四 細 則

一 學則施行細則

第一章 生徒心得

- 第一條 校ノ内外ヲ問ハス其ノ體面ヲ汚スカ如キ言行アルヘカラス
- 第二條 始業ノ號鐘ニ依リ直ニ定席ニ着キ教官ノ入室ヲ待ツヘシ教官入室スルトキハ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ
- 退室ノ際モ亦同シ
- 第三條 教官定刻ニ至ルモ教室ニ臨場セサルトキハ教務課ニ問合セ其ノ指揮ヲ受クヘシ隨意ニ退散スルコトヲ得ス
- 第四條 教室ニ在リテハ授業中ハ勿論休憩中ト雖モ靜肅ヲ旨トシ喧噪ノ行爲アルヘカラス
- 第五條 教室内ニハ授業上ノ必要品及許サレタルモノノ外ハ持込ムヘカラス

第六條 教官ノ許可ナクシテ恣ニ退出スルコトヲ得ス

第七條 校舍内ニ於テハ指定場所ノ外喫煙スヘカラス

第八條 登校ニ際シテハ必ス靴ヲ穿ツヘシ但シ特ニ生徒監ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 建物又ハ器物ヲ毀損シ若ハ汚損シタル者ニ對シテハ之ヲ辨償セシメ情狀ニ依リテハ處分スルコトアルヘシ

第十條 本校ノ示達ハ所定ノ場所ニ揭示シタル以上ハ一般ニ了知セラレタルモノト見做スニヨリ常ニ揭示場ニ注意スヘシ

第十一條 揭示ヲ爲サントスルトキハ生徒監ノ許可ヲ受ケ必ス所定ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十二條 集會ヲ爲サントスルトキハ其ノ代表者ヲ定メ集會ノ目的、種類、時日、場所（會費ヲ要スルトキハ其ノ金額）等ヲ具シ集會ノ前日マテニ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 集會ノ爲ニ教室ヲ借用セントスルトキハ教務課ノ許可ヲ受クヘシ其ノ他ノ

場所ヲ使用セントスルトキハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 校外ニ於ケル集會ハ風紀ヲ害シ多額ノ費用ヲ要スルノ虞ナキ場所ニ於テ之

ヲ開クヘシ

第十五條 集會ハ休業日又ハ放課後ニ於テ之ヲ開クヘシ

第十六條 一定ノ會ヲ組織セントスルトキハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ解散シタル

トキハ生徒監ニ届出ツヘシ

第十七條 別ニ規定ヲ設ケタルモノノ外願届書等ハ總テ學級主任ノ承認ヲ經ヘシ

第十八條 本校生徒ハ總テ本校々友會員タルヘキ義務アルモノトス

第二章 入學、在學、轉科轉類

第一條 學則第四章第十一條ニ依リ入學ノ許可ヲ得タル者ノ差出スヘキ保證書ノ様式ハ左ノ通之定ム

參錢收
入印紙

保證書

本籍及族稱
家庭所在地
家族關係
氏

年 月 日 生 名

右之者今般入學ノ御許可ヲ得候ニ付テハ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受クヘキコト保證候也
追テ向後私ノ宿所移轉或ハ印章相改メ候節ハ速ニ届出ツヘク候也
年 月 日

本籍地
現住所
職業
生徒トノ續柄
保證人

年 月 日 名 印
氏

廣島高等學校長氏名殿

第二條 戶籍ニ異動ヲ生シタルトキハ戶籍謄本ヲ添へ遲滯ナク届出ツヘシ

第三條 陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若ハ召集ニ應シタルトキハ其ノ役名服役又ハ召集ノ期限及部隊又ハ艦艇名ヲ具シ遲滯ナク届出ツヘシ

第四條 學則第四章第十五條ニ依ル轉科轉類ハ同學年若ハ其ノ以下ノ學年ニ限ル

第五條 第一學年ニ轉科轉類セントスル者ニハ入學選抜試験ヲ受ケシム

第六條 第二學年以上ニ轉科轉類セントスル者ニハ缺員アル場合ニ限り左ノ方法ニ依リ特ニ許可スルコトアルヘシ

一 從來ノ操行及學業成績ヲ參考シタル上檢定試験ヲ課ス

二 檢定試験ハ轉入セントスル科類ニ於ケル前學年以下ノ全科目エ付之ヲ課スルモノトス

但シ轉類セントスル者ノ既修シタル學科目ニシテ其ノ内容、程度及毎週教授時數ニ於テ同等以上ト認ムヘキ場合ハ當該學科目ニ限り試験ヲ課セサルコトヲ得

第七條 轉科轉類ノ時期ハ學年ノ始トス

第三章 隨意科目、選擇科目

第一條 入學ヲ許可セラレタル者ニシテ隨意科目ヲ履修セントスル者ハ指定ノ期日マテニ其ノ旨届出ツヘシ

第二條 隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ履修スルコトヲ得ス

第三條 隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ其ノ履修ヲ止ムルコトヲ得ス

次學年ヨリ隨意科目ノ履修ヲ止メントスル者ハ其ノ學年ノ終ニ於テ届出ツヘシ

第四條 入學者選抜試験ノ外國語ニ獨語ヲ選ヒタル入學者ニ對シテハ本校ノ都合ニ依リ第二外國語ヲ履修セシメサルコトアルヘシ

第五條 學則第二章第四條第二項ニ依ル學科目ノ選擇ハ第二學年ノ終ニ於テ之ヲ届出ツヘシ

第六條 前條學科目ノ選擇ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四章 遲刻、缺課、缺席

第一條 疾病又ハ己ムヲ得サル事故ニ因リ課業ニ遲刻又ハ缺席セル者ハ當日ヨリ三日

以內(休日ヲ除ク)ニ生徒課備付ノ缺席届簿ニ日時及其ノ事由ヲ記入捺印シ生徒監ノ承認ヲ受クヘシ

三日以上引續キ缺席シテ前項ノ手續ヲ爲ス能ハサルトキハ最初ヨリ三日以內ニ書面ヲ以テ生徒監ニ届出ツヘク又疾病ニ因リ缺席七日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二條 左ノ事由ニ因リテ缺課缺席ヲ届出テタル場合ハ之ヲ缺課缺席ノ數ニ算入セス
一 父母ノ喪ニ當リタルトキハ七日以內、祖父母兄弟姉妹ノ喪ニ當リタルトキハ五日以內、其ノ他ノ服忌ヲ受クル場合ハ三日以內

二 徴兵検査ヲ受クル場合ハ其ノ當日ト本校ノ適當ナリト認ムル往復日數ヲ加ヘタル日數

第五章 成績考査

第一條 各學科目ノ成績ニ對シ評點ヲ附ス
評點ヲ分チテ學期評點及學年評點ノ二種トス

第二條 學期評點ハ學期毎ニ各學科目ニ就キ當該學期間ノ日常ノ課業、臨時試驗、學期試驗ノ成績及平素ノ勤惰等ヲ考査シテ之ヲ定ム

第三條 學年評點ハ各學期評點ノ和ヲ三ヲ以テ除シタルモノトス

第四條 各學科ノ評點科目數ハ左ノ通之ヲ定メ其ノ一科目ノ滿點ヲ百點トス

學科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙
修身						
國語及漢文	二	二	二	二	二	二
第一外國語	三	三	三	三	三	三
第二外國語	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
歷史	一	一	二	二	一	一
地理	一	一				
哲學概説						
心理及論理						
法制及經濟	一	一	一	一	一	一

合 計	体 操	圖 畫	心 理	礦 物 及 地 質	植 物 及 動 物	化 學	物 理	自 然 科 學	數 學
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—							—	—
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—							—	—
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—	—		—	—				二
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—	—		—	—				二
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—							—	
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—							—	
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—	—	—		—	—	—		二
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—	—	—		—	—	—		二
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—								
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—								(1)
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—	(1)							(1)
(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)(10)	—	(1)							(1)

第二外國語ヲ履修スル者ニ對シテハ他學科ト同一ニ取扱フモノトス

第五條 試驗ニ缺席シタル者ニハ零點ヲ附ス但シ其ノ缺席ノ事由正當ナル者ニ對シテハ左ノ規定ニ依ル

一 學期試驗ニ在リテハ平素ノ學業成績、行狀、勤惰等ヲ考查シ他ノ學期ノ評點ヲ

參酌シテ認定點ヲ附與ス

二 臨時試驗ニ在リテハ其ノ學期試驗ノ成績ヲ參酌シテ認定點ヲ附與ス

三 同一學期ノ學期試驗及臨時試驗ニ缺席シタル者ニハ他學期ノ學期評點ヲ參酌シテ認定點ヲ附與スルコトアルヘシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ認定點ヲ附與セス

- 一 停學處分ヲ受ケタル爲ニ試驗ニ缺席シタル者
- 二 試驗ニ缺席シタ事由ヲ期日內ニ届出テサル者
- 三 當該學期ニ於テ某科目ノ教授總時數ノ五分ノ三以上缺席シタル者

第七條 前條第三號ニ該當スル者ニシテ他ノ二學期ノ成績佳良ナル者ニ對シテハ詮議ノ上認定點ヲ附與スルコトアルヘシ

第八條 學年成績ノ平均評點六十以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ行狀、勤惰ヲ參酌シテ合格トシ進級又ハ卒業セシム

一 科目評點六十未滿ノモノナキ者

二 科目評點六十未滿ノモノ一科目アルモ其ノ評點四十以上ナル者
 三 科目評點六十未滿ノモノ二科目アルモ其ノ評點一ハ五十以上他ハ四十以上ナル者

四 科目評點六十未滿ノモノ科目總數ノ三分ノ一以内アルモ何レモ其ノ評點五十以上ナル者

第九條 當該學年ニ於ケル缺課缺席ノ數夥多ナル者ハ前條ニ拘ラス進級又ハ卒業セシメサルコトアルヘシ

第六章 授業料、寄宿料

第一條 授業料及寄宿料徴收期日ハ左ノ通之ヲ定ム

第一學期分 四月十六日ヨリ同月二十日迄

第二學期分 九月十六日ヨリ同月二十日迄

第三學期分 一月十六日ヨリ同月二十日迄

前項ノ期中休業ニ當ル日アルトキハ順延ス

第二條 授業料及寄宿料ハ前條ノ徴收期日內ニ於テ所定ノ納付書用紙ニ所要事項ヲ記入シタルモノヲ添ヘ現金ヲ以テ會計課ニ納付スヘシ但シ病氣其ノ他己ムコトヲ得サル事故ニ因リ歸郷シ又ハ他ノ地方ニ在ル者ハ郵便爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得

第三條 本章第一條ノ徴收期ヲ過キテ入學又ハ入寮シタル者ハ入學又ハ入寮ノ日ヨリ七日以内ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付スヘシ

第四條 本章第一條及第三條ノ期限內ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ニ對シテハ之ヲ納付スルマテ出席ヲ停止ス

第五條 本章第一條及第三條ノ期限滿了ノ翌日ヨリ二週間ヲ經過スルモ尙授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ハ學則第六章第六條第七號ニ依リ之ヲ除名ス

第七章 通 學

第一條 通學生徒ハ異動ノ有無ニ拘ハラヌ每學期ノ始ニ於テ所定ノ用紙ヲ以テ宿所ヲ生徒課ニ届出ツヘシ

第二條 通學生徒宿所ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ其ノ宿所ヲ届出ツヘシ

第三條 通學生徒ノ宿所ニシテ不適當ト認メタルトキハ宿所ノ變更ヲ命スルコトアル
ヘシ

第八章 服 裝

第一條 本校生徒ノ服裝ハ左ノ通之ヲ定ム

一 正 帽

制式 丸形

品質 絨

色 黒

徽章 眞鍮製金色ニシテ三個ノ竹葉ニ高ノ字ヲ附シタルモノ



横章 白線(幅約二分五厘)二條

二 略 帽

制式 普通形(縁約三寸高サ約三寸)

品質 麥 藁

鉢卷 焦茶地(幅約一寸七分)ニ白線(幅約二分)二條(間隔約二分)

徽章 正帽ニ同シ

三 服

(甲) 冬 服

(一) 上 衣

制式 背廣形立襟

品質 絨又ハ小倉

色 濃紺又ハ黒

襟章 文科ハL、理科ハS(眞鍮製金色)ヲ左襟ニ附ス

釦 圓形ニシテ徽章ヲ表シタルモノ（眞鍮製金色）

(二)ズボン

制式 普通

品質 上衣ニ同シ

色 上衣ニ同シ

(乙)夏服

(一)上衣

制式 冬服ノ上衣ニ同シ

品質 小倉

色 藍鼠霜降

釦 冬服ノ上衣ニ同シ

襟章 冬服ノ上衣ニ同シ

(二)ズボン

制式 冬服ノズボンニ同シ
品質 上衣ニ同シ
色 上衣ニ同シ

四靴

制式 短靴（編上及深護謨ヲ含ム）

品質 革、ズツク又ハ護謨

色 黒

五脚 袴

制式 卷脚袴

品質 絨又ハ木綿

色 茶褐

脚袴ハ特ニ指定シタル場合ニノミ之ヲ着用スルモノトス

第二條 左ノ場合ニ於テハ前條制定ノ服裝ヲ爲スヘシ

- 一 儀式舉行ノ場合
- 二 授業ヲ受クル場合
- 三 本校ヨリ特ニ指定シタル場合
- 第三條 己ムヲ得サル事故ニ因リ制服ヲ着用スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ詳記シテ生徒課ニ届出テ畧裝許可ヲ受クルニ非サレハ授業ヲ受クルコトヲ得ス
- 第四條 外出ノ際ハ成ルヘク制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スルトキハ必ス制帽ヲ被リ袴ヲ穿ツヘシ
- 第五條 冬服着用期間ハ十月一日ヨリ翌年四月三十日マテ夏服着用期間ハ五月一日ヨリ九月三十日マテトス但シ時宜ニ依リ其ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第六條 新ニ入學セル生徒ニ對シテハ其ノ年四月三十日マテハ和服着用ヲ許可ス
- 第七條 畧帽ハ五月一日ヨリ九月三十日マテ之ヲ着用スルコトヲ得但シ儀式其ノ他特ニ指定シタル場合ニハ必ス正帽ヲ着用スヘシ
- 第八條 外套ヲ着クル者ハ乗馬形(絨製濃紺色又ハ黒色)ノモノヲ用フヘシ但シ將校

マント(絨製濃紺色又ハ黒色)ヲ以テ之ニ代フコトヲ得

第九章 學級總代

第一條 各學級ニ學級總代二名ヲ置ク學級總代ハ其ノ學級ノ生徒ヲシテ互選セシメ學校長之ヲ命ス但シ第一學年ニ在リテハ此ノ規定ニ依ラサルコトアルヘシ

第二條 學級總代ハ當該學級主任ノ指揮ヲ承ケ其ノ學級ニ關スル一切ノ世話ヲ爲スモノトス

第三條 學級總代ノ任期ハ一學年間トス

第四條 學級總代ハ文科理科毎ニ其ノ科ノ最上級ノ學級總代中ヨリ代表者一名ヲ選舉シ之ヲ其ノ科總代トス

二 校務分掌規程

第一條 校務ヲ分テテ教務課、生徒課、庶務課、圖書課及會計課ノ五トス

第二條 教務課、生徒課、庶務課、圖書課ニ課長ヲ置キ會計課ニ主任ヲ置ク

第三條 課長ハ教授中ヨリ主任ハ會計課員中ヨリ學校長之ヲ命ス

教務課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ掌理ス

生徒課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ニ關スルコトヲ掌理ス

庶務課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

圖書課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ圖書ニ關スル事務ヲ掌理ス

會計課主任ハ學校長ノ命ヲ承ケ會計ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 一學科又ハ數學科ヲ合セタルモノニ學科主任ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

學科主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ當該學科ノ授業ニ關スル事ヲ掌ル其ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

一 當該學科教授ノ統一改善ヲ圖ルコト

二 當該學科ノ教科用書ニ關シ提案スルコト

三 當該學科ノ授業分擔ニ關シ提案スルコト

四 當該學科ノ特別教室ニ關スルコト

五 其ノ他當該學科ニ關スル事項

第五條 各學級ニ學級主任ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

學級主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ當該學級ノ生徒ノ監督指導ノ任ニ當ル其ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

一 當該學級ノ生徒ノ動情及行狀ニ關スルコト

二 當該學級ノ生徒ノ試業成績ニ關スルコト

三 當該學級ノ生徒ノ訓育ニ關スルコト

四 當該學級ノ教室ノ整理ニ關スルコト

五 其ノ他當該學級ニ關スル事項

第六條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 學科課程教科書及授業時間ニ關スルコト
- 二 學級ノ編成ニ關スルコト
- 三 授業上ノ設備ニ關スルコト
- 四 生徒募集選抜試験及入學ニ關スルコト
- 五 隨意科目選擇科目ニ關スルコト
- 六 授業及休業ニ關スルコト
- 七 生徒ノ學籍簿出席簿ニ關スルコト
- 八 生徒ノ休學、退學及除名ニ關スルコト
- 九 生徒ノ試業及成績考査ニ關スルコト
- 十 生徒ノ進級及卒業ニ關スルコト
- 十一 卒業生ノ大學進入ニ關スルコト
- 十二 在學及成績證明ニ關スルコト

- 十三 教官會議ニ關スルコト
- 十四 教官ノ缺勤、早退、遅刻届ニ關スルコト
- 十五 學級主任及學級總代ニ關スルコト
- 十六 教官及教官室ニ關スルコト
- 十七 教室參觀人ニ關スルコト
- 十八 教務課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
- 十九 教務課ニ關スル文書ノ整理保存ニ關スルコト
- 二十 其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

第七條 生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 生徒ノ指導、監督、訓誨、懲戒ニ關スルコト
- 二 生徒ノ勤惰、行狀、遅刻、缺課、缺席ニ關スルコト
- 三 生徒ノ衛生及身體檢查ニ關スルコト
- 四 生徒ノ服裝ニ關スルコト

- 四八
- 五 生徒ノ集會及揭示ニ關スルコト
 - 六 生徒控所ニ關スルコト
 - 七 生徒ノ身分證明及兵役ニ關スルコト
 - 八 通學生徒ノ宿所ニ關スルコト
 - 九 生徒ノ入寮退寮ニ關スルコト
 - 十 寄宿寮ノ管理、警備、衛生、食事ニ關スルコト
 - 十一 寄宿寮ノ當直ニ關スルコト
 - 十二 校內營業者ニ關スルコト
 - 十三 生徒課ニ關スル文書ノ作製及保管ニ關スルコト
 - 十四 生徒課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
 - 十五 其ノ他生徒ノ取締ニ關スル一切ノ事項
- 第八條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 御眞影及勅語ノ保管ニ關スルコト

- 四九
- 二 學校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スルコト
 - 三 儀式ニ關スルコト
 - 四 學校一覽及統計報告ニ關スルコト
 - 五 日誌及諸記録ニ關スルコト
 - 六 文書ノ接受及發送ニ關スルコト
 - 七 諸規則ノ制定及改廢ニ關スルコト
 - 八 職員ノ進退、身分及服務ニ關スルコト
 - 九 職員ノ叙位及叙勳ニ關スルコト
 - 十 職員出席簿ノ管理及調査ニ關スルコト
 - 十一 職員ノ願届ニ關スルコト
 - 十二 卒業證書ニ關スルコト
 - 十三 官報々告其ノ他ノ報告ニ關スルコト
 - 十四 校長室及庶務課ノ備品ノ保管ニ關スルコト

- 十五 乗車乗船割引證ニ關スルコト
十六 當直ニ關スルコト
十七 外國教師ニ關スルコト
十八 寄附ニ關スルコト
十九 庶務ニ關スル文書ノ起案及公文書類ノ整理保存ニ關スルコト
二十 其ノ他各分課ノ主掌ニ屬セサル一切ノ事項
- 第九條 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 圖書ノ保管及整理ニ關スルコト
 - 二 圖書目錄ニ關スルコト
 - 三 書庫及閱覽室ニ關スルコト
 - 四 圖書ノ貸付ニ關スルコト
 - 五 購入圖書ノ審査ニ關スルコト
 - 六 其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

- 第十條 會計課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 歳入、歳出、豫算及決算ニ關スルコト
 - 二 國有財産及資金管理ニ關スルコト
 - 三 金銭收支及保管ニ關スルコト
 - 四 物品ノ購入及不用品ノ處分ニ關スルコト
 - 五 物品ノ出納及保管ニ關スルコト
 - 六 營繕ニ關スルコト
 - 七 校内ノ警備及衛生ニ關スルコト
 - 八 傭人ノ進退及取締ニ關スルコト
 - 九 會計ニ屬スル文書ノ起案、整理及保存ニ關スルコト
 - 十 會計帳簿ノ整頓ニ關スルコト
 - 十一 會計課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
 - 十二 其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項

三 文書處理規程

第一條 本校ニ到達シタル文書ハ總テ庶務課ニ於テ之ヲ收受シ左ノ各號ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

- 一 親展書其ノ他特定ノモノハ其ノ儘名宛人ニ配付スルコト
- 二 前號以外ノ文書ハ總テ之ヲ開封シ文書收受簿ニ登記シ文書ニ記號及年月日ヲ記入シ直ニ主掌分課ニ配付シ其ノ認印ヲ徵スルコト
- 三 二課以上ニ關係アル文書ハ關係ノ重キニ從ヒ之ヲ配付スルコト
- 四 配付ヲ受ケタル文書ニシテ他課主掌ニ屬スルモノアルトキハ之ヲ庶務課ニ還付スヘシ

第二條 左ノ文書ハ庶務課ヲ經由セス主掌分課ニ於テ直接之ヲ收取スヘシ

- 一 教務ニ關シ教官ヨリ提出スル報告書類
- 二 生徒ヨリ差出ス願届書類

三 入學志願者心得、受験名票等

四 其ノ他學校長ノ指定シタル書類

第三條 文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ各課ニ於テ遲帶ナク之ヲ調査シ相當處理案ヲ提出スヘシ

第四條 文書ノ内容上直ニ處理案ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ處理案ヲ要スルヤ否ヤ不明ナルトキハ校長ニ供閱シテ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條 決裁ヲ受ケントスル文書ニシテ他課ニ關聯スル事件ハ該課ニ合議スヘシ

第六條 決裁濟ノ文書ハ主掌分課ニ於テ決裁年月日ヲ記入シ速ニ之ヲ處理スヘシ

決裁ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ淨書校合シ其ノ議案書ヲ添ヘテ庶務課ニ送付スヘシ

第七條 庶務課ニ於テハ發送文書及議案書ニ番號ヲ附シ之ヲ文書件名簿ニ登記シテ發送ノ手續ヲ了シ議案書ヲ該課ニ返付スヘシ

文書發送ニ際シ親展書、書留郵便、至急電報等特別ノ取扱ヲ要スルモノハ主掌分課

ニ於テ其ノ議案書ニ標記スヘシ

第八條 庶務課ニ於テ文書ヲ發送シタルトキハ其ノ月日、受信名、發信名、料金等ヲ登記シ取扱主任檢印スヘシ

第九條 事件完結シタル文書ニシテ各課ニ保存スヘキモノヲ除ク外ハ總テ之ヲ庶務課ニ引繼クヘシ

各分課ニ於テ保存スヘキ文書ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ之ヲ整理シ又ハ編纂スヘシ

四 文書保存規程

第一條 事件ノ完結シタル文書ハ各主掌分課ニ於テ整理編纂シテ之ヲ保存スヘシ

第二條 文書ノ保存ヲ區別シテ永年、十年、五年及一年ノ四種トシ其ノ保存スヘキ文書名ハ各課ニ於テ學校長ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第三條 文書ハ左ノ各號ニ依リ編纂スヘシ

一 事件完結ノ順序ニ依リ曆年（會計ニ關スルモノハ會計年度）ヲ以テ分界トス

但シ紙數ノ多寡ニ依リ一箇年分ヲ便宜分綴シ又ハ數年分ヲ合綴スルコトヲ得

二 卷首ニ件名及索引丁數ヲ掲記シタル目錄ヲ附シ其ノ表紙ニ簿冊名、年若ハ年度、保存期間、記號及主掌課名ヲ記載シ數冊ニ分綴セシモノハ數字ノ符號ヲ附シ尙檢索ヲ容易ナラシムル爲前部切斷面ニ簿冊名、年若ハ年度、保存期間ヲ記標スルコト但シ保存期間一年ニ屬スル文書ニハ目錄ヲ附セサルコトヲ得

三 圖表類ニシテ合綴シ難キモノハ袋又ハ箱ニ納メテ名稱ヲ標記シ其ノ所在ヲ目錄

ニ附記スルコト

第四條 前條ニ依リ編纂シタル文書ハ文書臺帳（別紙様式）ニ登録シテ之ヲ一定ノ場所ニ藏置スヘシ

第五條 保存期間ハ文書完結ノ翌年ヨリ起算ス但シ會計年度ニ屬スルモノハ翌年度ヨリ起算スヘシ

第六條 保存期間ヲ了リ若ハ未タ了ラサルモ保存ノ必要ナシト認メタル文書ハ經伺ノ上之ヲ會計課ニ引繼クヘシ但シ一般ノ披閱ヲ避クヘキ文書ハ引繼前經伺ノ上相當ノ措置ヲ爲スヘシ

前項ノ引繼ヲ了リタルトキハ文書臺帳ニ廢棄年月日ヲ記入スヘシ

自昭和 年(度)

至昭和 年(度)

文書臺帳

課

名	稱	年(年度)	記	號	冊	數	保存期間	保存終期	廢棄年月日

五 宿直勤務規程

- 第一條 執務時間外ニ生スル事務ヲ處理スル爲宿直ヲ置ク
- 第二條 本校書記及雇員ハ輪番ヲ以テ宿直ニ服スヘシ
前項以外ノ宿直ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ都度學校長特ニ之ヲ命ス
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ當ル時ハ宿直ヲ免ス
 - 一 賜暇中
 - 二 忌引中
 - 三 病氣其ノ他ノ事故ニ因ルトキ
 - 四 出張ノ前日及歸校ノ翌日
 - 五 新任者ハ着任ノ日ヨリ七日間
 - 六 以上ノ外學校長ニ於テ除直スヘキ必要アリト認メタルトキ
- 第四條 宿直員ハ止ムヲ得サル事故ノ爲當日ノ勤務ニ差支アルトキハ僚ヲ以テ代直

ヲ立ツルコトヲ得

- 第五條 宿直者ニハ其ノ前日マテニ庶務課ヨリ通知シ認印ヲ調スヘシ
- 第六條 宿直ノ時間ハ左ノ如シ
 - 一 平日ハ退出時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ
 - 二 休日ノ晝間ハ出勤時刻ヨリ退出時刻マテ及同夜間ハ退出時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ

第七條 宿直室ニ備フヘキ帳簿及器具等左ノ如シ

- 一 宿直名簿
- 二 宿直日誌
- 三 文書收受簿
- 四 文書發送簿
- 五 印 箱
- 六 郵便切手受拂簿

- 七 電信用語符號表
- 八 郵便切手及葉書
- 九 校務分掌規程
- 十 職員住所録
- 十一 生徒宿所録

第八條 宿直員勤務ノ主要事項概ネ左ノ如シ

- 一 接受シタル物件ヲ處理スルコト
- 二 校舎各室ノ鎖鑰ヲ管守スルコト
- 三 巡視ヲ監督シテ校舎内外ノ取締ヲ爲スコト
- 四 暴風雨及其ノ他ノ變事ニハ注意シテ校舎ノ内外ヲ巡視シ特ニ火氣ニ對シテ警戒スルコト

第九條 宿直中接受シタル物件ハ左ノ取扱ヒヲ爲スヘシ

- 一 親展公文書並職員生徒宛私文書及其ノ他ノ物件ハ翌日夫々配付シ電報其ノ他急

速ヲ要スト認メ得ヘキモノハ直ニ名宛人ニ送付スヘシ

- 二 親展ニ在ラサル公文書ハ直ニ開封シ夫々處理スヘシ

第十條 宿直中非常異變アルトキハ直ニ學校長、教頭、各課長及學校附近在住ノ職員ニ通知シ事急ナルトキハ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ但シ別ニ定ムル警備規程ニ準據スヘシ

第十一條 宿直員ハ其ノ勤務中取扱ヒタル事件ヲ宿直日誌ニ認メ翌日庶務課長ニ申報スヘク若シ翌日休暇ナルトキハ交替ノ者ニ必ス事務ノ引繼ヲ爲シテ退出スヘシ

六 物品會計規程細則

第一章 總 則

第一條 物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ本細則ニ依リ處理スヘシ

第二條 物品ハ其ノ性質及用法ニ從ヒ之ヲ大別シテ備品及消耗品ノ二種トス

第三條 各課又ハ特別教室ニ物品監守者及物品取扱主任者ヲ置キ物品ノ監守及消耗品ノ取扱ノ責ニ任セシム

第四條 前條ニ於ケル監守區域ハ學校長ノ定ムル所ニ據ル

第五條 物品ハ總テ記號ヲ付スヘシ但シ物品ノ性質形狀ニ依リ記號又ハ番號ヲ付シ難キモノハ此ノ限リニ在ラス

第二章 保管 及 出 納

第六條 物品ノ保管及出納ハ學校長ノ命令ニ依リ物品會計官吏之ヲ行フ

第七條 通常所要ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ一箇年ノ所要高ヲ豫定シ學校長ノ決裁ヲ受ケ一回又ハ數回ニ取纏メ購入ノ手續ヲ爲シタル後之ヲ藏置シ請求ニ應シテ支給スヘシ

第八條 臨時所要ノ物品ハ各課又ハ特別教室ノ請求ニ依リ物品會計官吏ニ於テ其ノ都度學校長ノ決裁ヲ受ケ購入ノ手續ヲ爲シ之ヲ支給スヘシ

第九條 生産及寄贈ニ係ル物品ハ物品會計官吏ニ於テ見積價格ヲ付シ學校長ノ決裁ヲ經テ受入、藏置若ハ支給ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 各課及特別教室ニ於テ所要ノ物品アルトキハ別ニ定ムル物件所要通告票ニ品名、數量及所要ノ事由ヲ詳記シ尙該主席者ノ檢印ヲ受ケ會計課ニ請求スヘシ但シ圖書ニ在リテハ圖書課ニ請求スルモノトス

第十一條 學術上機械ノ製作及修理ニ特殊ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル必要アルモノハ圖案及仕様書ヲ添ヘ會計課ニ請求スヘシ

第十二條 會計課ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ物品會計官吏ヲ經

ヲ學校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受クハシ但シ場合ニ依リテハ其ノ數量ヲ減シ又ハ請求ニ應セサルコトアルヘシ

第十三條 圖書課ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受クヘシ

第十四條 會計課ニ於テ物品ヲ請求者ニ支給セントスルトキハ物品支給命令票所定欄ヘ領收印ヲ徵シ請求者ニ交付スヘシ

第十五條 物品監守者及物品取扱主任者ハ物品監守簿及消耗品受拂簿ヲ設ケ物品ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ登記シ備品ニ在リテハ其ノ備付場所ヲ監守簿ニ記載シ常ニ其ノ所在ヲ明ニシ消耗品ニ在リテハ職員各自ノ請求ニ應シテ之ヲ支給シ帳簿ノ當該欄ニ領收印ヲ徵スヘシ

第十六條 各課及特別教室ニ於テ物品ノ不用ニ屬シタルモノアルトキハ直ニ會計課ニ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 物品會計官吏前條ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ將來使用ノ見込アル

トキハ保管ノ手續ヲ爲シ使用ノ見込ナキトキハ處分案ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十八條 物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ物品監守者ハ其ノ事實ヲ詳記シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ學校長ノ裁定ヲ得責任者ヲシテ之ヲ修理セシメ又ハ代品若ハ代價ヲ辨償セシムルモノトス

第十九條 自然毀損ノ物品ニシテ修理ノ上使用ノ見込アルモノハ修理ヲ請求シ其ノ見込ナキモノハ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 物品監守者及物品取扱主任者交代シタルトキハ前任者後任者立會ノ上引繼ヲ爲シ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ引繼年月日ヲ記シ且記名捺印スヘシ

第二十一條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明ニスル爲左ノ帳簿ヲ置クヘシ

一 普通備品出納簿

一 圖書出納簿

一 機械出納簿

一 標本出納簿

證票ニ基キ出納ヲ記入シ在庫及共用物品ノ現在ヲ明ニス

一 消耗品出納簿

證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ在庫及消費高ヲ明ニス

第二十二條 共用中ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督スヘシ

一 各課又ハ特別教室ノ消耗品受拂簿ヲ毎月一回消耗品出納簿ニ照查ス

二 毎年一回物品出納簿備品監守簿消耗品受拂簿ニ依リ各課又ハ教室ニ付キ現品ヲ

査閲シ學校長ニ報告スヘシ

三 前號ノ調査ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シタルトキハ學校長ニ申告シ其ノ處理ヲ求ムヘシ

第三章 檢 閲

第二十三條 物品檢閲ヲ分チテ定期、臨時ノ二トス

定期檢閲ハ毎年八月之ヲ施行シ臨時檢閲ハ臨時必要ノ場合ニ之ヲ施行ス

第二十四條 物品檢閲員ハ委員長一名委員若干名トシ學校長職員中ヨリ之ヲ命ス

第二十五條 物品檢閲員ノ檢査スヘキ事項左ノ如シ

一 物品保管ノ適否

二 備品使用ノ適否

三 消耗品消費ノ有無

四 物品缺損ノ有無

五 帳簿ト現品トノ對照

六 其ノ他必要ナル事項

第二十六條 物品檢閲ノ際ハ在庫品ニ付テハ物品會計官吏使用中ノ物品ニ付テハ物品

監守者又ハ物品扱主任者其ノ席ニ列シ檢閲委員ノ質問ニ答フヘシ

第二十七條 物品檢閲員ニ於テ檢査上故障ナシト認メタルトキハ簿冊ニ檢印シテ之ヲ證

スヘシ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ始末書ヲ徵スルコトアルヘシ

第二十八條 物品檢閲委員ハ其ノ檢査ヲ了シタルトキハ檢査顛末書ニ意見書ヲ付シ學
校長ニ申告スヘシ

七 圖書閱覽室規則

第一條 圖書閱覽室ニ入ルコトヲ得ルモノハ左ノ如シ

- 一 本校職員及舊職員
- 二 本校生徒及卒業生
- 三 校長ノ許可ヲ得タルモノ

第二條 圖書閱覽室ハ日曜日、大祭祝日及本校所定ノ休校日ヲ除キ毎日之ヲ開ク但シ
試験中其ノ他必要ト認メタルトキハ休日ト雖モ特ニ之ヲ開クコトアルヘシ

第三條 圖書ヲ閱覽セントスル者ハ所定ノ用紙ニ必要事項ヲ記入シテ圖書課係員ニ差
出スヘシ

第四條 閱覽者ハ借覽圖書ヲ漫リニ閱覽室外ニ携出スヘカラス

第五條 閱覽者ハ借覽圖書ヲ他人ニ轉貸スヘカラス

第六條 閱覽者一人ニテ一時ニ閱覽スルヲ得ル圖書數ハ之ヲ制限スルコトアルヘシ

第七條 閱覽者ハ室内ニ於テ左ノ各項ヲ嚴守スヘシ

一 喫煙、音讀、雜談、食事等總テ他人ノ妨害トナルヘキ行爲ヲナササルコト

二 制服又ハ袴ヲ着用シ、靴又ハ草履ヲ穿ツコト

三 帽、外套、マント、襟卷等ヲ着用セサルコト

四 卓子、腰掛等備附品ノ位置ヲ變更セサルコト

五 圖書閱覽ニ必要ナキ物品ヲ携ヘ入ルヘカラサルコト

第八條 前條ノ規定ニ違背シタルモノ其ノ他不都合ノ行爲アリタルモノハ退去セシムルコトアルヘシ

第五 職員

(昭和二年六月末日現在)

學校長

文學士 十 時 彌 福 岡

教授

英 語 大 谷 正 信 島 根

修身及獨語 堀 江 久 勝 長 野

數 學 下 田 卯 市 廣 島

獨 語 中 島 一 郎 石 川

漢 文 飯 田 御 世 吉 郎 福 岡

生徒監 文學士 北 島 葭 江 岡 山

英 語 雜 賀 忠 義 和 歌 山

英 語 鳴 澤 憲 新 潟

獨 語 清 家 材 愛 媛

(在外研究中)
(在外研究中)

物理及自然科學	生徒監 理學士 仲瀬善太郎 京都
心理及論理	ドクトル、オブ、 フィロソフィー 文學士 力丸 慈圓 福岡
歷史	文學士 星野 歲馨 山口
獨語	文學士 山下 秩光 埼玉
化學及自然科學	理學士 池田 英苗 廣島
國語	生徒監 文學士 濱本勝治郎 京都
法制、經濟及獨語	法學士 上浦 種一 和歌山
歷史	文學士 杉本直治郎 滋賀
英語	文學士 山本 外吉 石川
物理及數學	理學士 志茂山保光 京都
獨語	文學士 長島 喜三 神奈川
哲學及獨語	文學士 日高 第四郎 東京
歷史及地理	文學士 中原與茂九郎 岡山

化學	理學士 比 企 修 福井
數學	理學士 石田巳代治 香川
英語	文學士 小日向幹夫 東京
植物、動物及自然科學	理學士 渡邊 清彦 靜岡
配屬將校	步兵第十一聯隊附 陸軍歩兵少佐 村田辰五郎 福井
教練	
講師	

鑛物、地質及自然科學	理學士 西岡 薰祐 山口
圖書	理學士 鈴木 正利 茨城
圖書	廣島高等師範學校講師 原 貫之助 福岡
漢文	廣島高等師範學校教授文學士 武藤 長平 愛知
漢文	廣島高等師範學校教授文學士 後藤 俊瑞 兵庫
漢文	廣島高等師範學校教授文學士 手塚 良道 愛知

體操及教練

陸軍歩兵少佐

南 敏 造 廣島

體操

陸軍歩兵特務曹長

池 上 喜 作 靜岡

體操

陸軍歩兵特務曹長

林 廣 助 熊本

體操

陸軍歩兵特務曹長

松 谷 安 藏 茨城

備外國人教師

ワルテル・ドーナート 獨逸

獨語

フランク・クツク 英國

武道教師

松 木 鶴 太郎 福岡

弓道

佐 々 木 茂 廣島

道書記

收入官吏
物品會計官吏

櫻 井 岩 藏 茨城

垂 水 延 秀 石川

事務囑託

雇

大 藪 利 福岡

木 村 國 太郎 廣島

須 田 勇 助 群馬

三 佐 尾 貫 一 廣島

山 野 岩 吉 鹿兒島

石 原 糾 岡山

田 中 鐵 三 郎 佐賀

西 元 實 雄 山口

山 田 新 熊本

樫 永 孝 雄 山口

松 林 開 三 廣島

助手

畑石稔廣島

石川武雄廣島

沖政夫廣島

校醫

京都醫學士 檜脇康一廣島

學級主任

文科第三學年甲類一組

教授 飯田御世吉郎 福岡

文科第三學年甲類二組

教授 中原與茂九郎 岡山

文科第三學年乙類

教授 山下秩光 埼玉

理科第三學年甲類

教授 志茂山保光 京都

理科第三學年乙類

教授 下田卯市 廣島

文科第二學年甲類一組

教授 山本外吉 石川

文科第二學年甲類二組

教授 上浦種一 和歌山

文科第二學年乙類

教授 長島喜三 神奈川

理科第二學年甲類

教授 石田巳代治 香川

理科第二學年乙類

教授 池田英苗 廣島

文科第一學年甲類一組

教授 雜賀忠義 和歌山

文科第一學年甲類二組

教授 日高第四郎 東京

文科第一學年乙類
理科第一學年甲類
理科第一學年乙類

教授 中島 一郎 石川
教授 小日向 幹夫 東京
教授 渡邊 清彦 靜岡

事務分掌

課

長 教務課

教授 堀江 久勝 長野

講師 鈴木 正利 茨城

書記 須田 勇助 群馬

(兼) 雇 西元 實雄 山口

課

長 生徒課

生徒監 教授 北島 葭江 岡山

生徒監 教授 仲瀬 善太郎 京都

生徒監 教授 濱本 勝治郎 京都

講師 南 敏造 廣島

講師 池上 喜作 靜岡

講師 林 廣助 熊本

寮務掛勤務

講師	松谷安藏
囑託	三佐尾貫一
石原	廣島
科岡山	

課 庶務課

教授	星野 歲
書記	大 藪 利
西元	實 雄
山口	

課 圖書課

教授	大谷 正
書記	垂水 延
山田	新 熊 本
松林	開 三
畑石	
稔廣島	

主 任 會計課

書記	櫻井 岩
書記	藏 茨 城
囑託	木村國太郎
廣島	
檜永	孝 雄
山口	

第六生徒

一生徒氏名

文科第三學年甲類一組

修道	池高助	廣島	廣島第一	笹本忠恕	靜岡
廣島第一	井内松一	廣島	廣島第一	佐藤勝三	愛媛
廣島第一	岩村喜代人	廣島	龍山	篠田隆治	靜岡
曹洞宗第三	小川惠正	愛知	吳	下野一市	廣島
廣島第一	太田正	廣島	柳井	城仁策	山口
修道	神田正夫	廣島	修道	龍田靜夫	廣島
吳	龜井藤吉	高知	柳井	鼓義男	山口
修道	木地本辰助	廣島	天王寺	津野一郎	大阪
修道	吉川雅	廣島	今宮	仲野修	大阪

山陽	西谷四郎	廣島	山陽	林茂	廣島
高資格	花本藏之助	廣島	山陽	平原正人	廣島
廣高師附	福島逸雄	熊本	廣高師附	船岡鐵司	廣島
廣島第一	松島綏	廣島	京都第二	眞鍋義雄	愛媛
粉河	南丘千卷	和歌山	吳	三原績	廣島

文科第三學年甲類二組

高松 安藝英二 香川

岩國	村上國平	山口	廣高師附	森本忠雄	高知
島取	本村浩	島取	京都第一	柳田俊雄	京都
福山	山根彦次郎	廣島	廣島第一	芳川壽夫	廣島
京城第一	高普	李鐘澄	京城第一	李鐘澄	朝鮮
山陽	渡里今市	廣島	濱田	渡利全策	島根

柳井伊東正 山口

京都第一	今村新太郎	東京
廣島第一	惠美知定	廣島
福山	片岡八郎	新潟
第一神戶	冠稔實	廣島
廣島第一	川崎正夫	廣島
廣高師附	北川四郎	廣島
第二神戶	栗田磐三	兵庫
臺南第一	栗原彌太郎	埼玉
堺	佐藤二郎	大阪
廣島第一	澤野武馬	廣島
廣島第一	三光迪	廣島
第一岡山	角南登三太	岡山
岩國	大樂嘉一郎	山口

修道	高規紀男	廣島
廣島第一	玉木伸彦	廣島
高松	坪井義男	香川
柳井	中川正	山口
武生	長江道太郎	岡山
西條	長尾篤	愛媛
廣高師附	二井内嘉徳	廣島
岩國	西孝	山口
崇徳	西岡定	廣島
三次	野村宥三	廣島
廣高師附	秦正夫	廣島
廣島第一	馬場春雄	廣島
廣島第一	福原邦輔	廣島

田邊	泓本小八郎	和歌山
福山	藤井香	廣島
廣島第一	正木巽	廣島
廣島第一	松本博	廣島
東京第四	守川成太郎	山口
廣高師附	森田文五	廣島

長府	森本守太郎	山口
東瀧	安江茂三郎	岐阜
廣島第一	矢田鴻一	山口
廣高師附	山岡春三	廣島
今治	山本義明	愛媛

文科第三學年乙類

忠海	天野常四郎	廣島
廣高師附	植田敏郎	廣島
京都第一	岡本正信	福井
金光	大島一幸	岡山
東山	小田切香苗	栃木

廣島商業	加藤武夫	廣島
田邊	上垣内武	兵庫
廣高師附	熊谷英麿	廣島
廣島第一	熊野徳次郎	廣島
濟々	兒玉壽雄	熊本

廣島工業	忠海	廣島第一	丸龜	廣島第一	唐津	金光	豐中	修道	修道	福山	廣高師附	廣高師附	廣高師附	龍山	吳岡田	廣島第一	吳岡田	柳井	廣島第一	平城高普
小林四郎	杉原靜雄	諏澤太郎	谷本義二	德澤龍潭	朝長光	難波忠晴	葉田秀二	井上昇	井上昇	泉克巳	井東敬三	井東敬三	井東敬三	岡田幸雄	岡田島	小河九一郎	織田秀雄	太田佐久良	木村太郎	金東燮
廣島	廣島	廣島	香川	廣島	長崎	岡山	兵庫	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	朝鮮

理科第三學年甲類

廣島第一	日生	東濃	金澤第一	吳溝	宇和島	和歌山	今治	粕壁	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	東京第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	福山	吳山
播本福一	福山嗣良	藤田次郎	逸見顯善	溝手夜	宮本清	宮本滋	山脇泰	山本宗本	楠原哲之助	重滿通彌	新原清明	島田拓示	鈴木良雄	田部辰	竹内義孝	瀧元	千柄實勇	手島志郎	友宗忠雄	德永等	
廣島	廣島	大阪	東京	廣島	愛媛	和歌山	愛媛	埼玉	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	島根	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島

池田岩雄	吳池田	廣島	京都第二	國安虎雄	京都
廣島	廣島	廣島	廣島第一	楠原哲之助	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	重滿通彌	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	新原清明	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	島田拓示	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	鈴木良雄	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	田部辰	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	竹内義孝	島根
廣島	廣島	廣島	東京第一	瀧元	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	千柄實勇	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	手島志郎	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	友宗忠雄	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島第一	德永等	廣島

廣高師附	永井行夫	廣島
京北	長尾準三	廣島
廣高師附	仲佐信	千葉
福山	中村清臣	兵庫
廣島師附	野澤正雄	石川
吳	林良作	廣島
修道	福原忠信	廣島
廣高師附	松島勝	廣島

理科第三學年乙類

山陽	赤松金四郎	廣島
新宮	青木棟夫	三重
廣島第一	井上雄吾	廣島

茨木	松丸勳	鳥取
關西學院	宮下俊二	兵庫
修道	村上末雄	廣島
廣島第一	森河信敏	廣島
柳井	守友豐治	山口
平城高普	李在熙	朝鮮
吳	若林兵滋	廣島

吳	池田一美	廣島
廣島第一	小田邦美	廣島
鳥取	大村良造	鳥取

防府	片山信	山口
大邱	龜石計夫	和歌山
兵庫工業	川居徳治	兵庫
廣島第一	久賀俊文	廣島
吳	久保田静雄	廣島
廣高師附	兒玉安郎	廣島
廣島第一	兒玉健男	山口
廣高師附	小日向英夫	東京
廣島第一	齋藤章	廣島
吳	酒井阜二	廣島
第二神戸	信濃榮	兵庫
廣島第一	高野惠	廣島
修道	田中繁巳	廣島

目白	寺崎由太郎	東京
麻布	永江亨	東京
岡山關西	中村熊三	岡山
崇徳	中川太郎	廣島
膳所	中川道太郎	滋賀
釜山	灘光清	廣島
矢掛	鍋島清志	廣島
廣高師附	新延信吉	廣島
廣陵	西原清一	廣島
京都	新田司郎	廣島
宇和島	兵頭通方	愛媛
廣高師附	藤井正道	廣島
修道	益田霞	廣島

廣 陵 松 森 哲 夫 廣 島
 小 倉 三 木 征 治 福 岡
 廣 島 第 一 水 野 宗 之 廣 島
 廣 島 第 一 宮 郷 吉 之 助 廣 島

文科第二學年甲類一組

關 西 青 江 秀 治 岡 山
 高 松 池 田 秀 夫 香 川
 第 二 神 戶 池 内 邦 人 兵 庫
 福 山 石 岡 利 男 廣 島
 西 條 石 川 政 太 郎 愛 媛
 今 治 井 出 岩 多 愛 媛
 修 道 大 塚 進 廣 島

宇 和 島 藥 師 神 嘉 雄 愛 媛
 廣 陵 米 川 清 三 廣 島
 廣 島 第 一 渡 邊 六 郎 愛 媛

廣 島 第 一 小 川 敬 郎 廣 島
 秋 田 柏 木 啓 一 福 島
 京 都 第 一 角 野 達 堂 福 井
 關 西 學 院 河 村 橘 雄 山 口
 第 二 岡 山 川 野 敏 夫 岡 山
 山 陽 木 村 三 郎 廣 島
 天 王 寺 北 村 秀 雄 大 阪

修 道 佐 久 間 茂 廣 島
 廣 島 第 一 佐 々 木 邦 彦 廣 島
 廣 島 第 一 佐 野 勤 廣 島
 龍 山 島 原 健 一 大 阪
 吳 妹 尾 健 廣 島
 福 山 高 垣 忠 雄 廣 島
 忠 海 高 橋 英 明 廣 島
 廣 島 第 一 高 山 昇 山 口
 岩 國 竹 田 平 山 口
 廣 島 第 一 寺 光 忠 廣 島
 廣 高 師 附 中 村 敏 德 島
 第 二 神 戶 中 山 清 二 兵 庫
 廣 高 師 附 名 田 清 志 廣 島

山 口 西 村 勝 矣 山 口
 傳 習 館 久 富 貢 福 岡
 廣 島 第 一 平 田 忠 敏 廣 島
 廣 島 第 一 牧 里 每 明 廣 島
 臺 北 第 一 水 梨 彌 久 福 島
 第 一 神 戶 三 戶 肇 兵 庫
 廣 島 第 一 向 井 寬 廣 島
 吳 守 谷 恒 美 廣 島
 吳 八 木 鐵 夫 愛 媛
 第 二 神 戶 柳 川 眞 一 兵 庫
 廣 島 第 一 山 地 秀 夫 廣 島
 欽 傍 山 邊 諭 吉 奈 良
 福 山 協 本 定 巳 廣 島

廣島第一 渡邊哲夫 宮城

培材高普 鄭四 變 朝鮮

文科第二學年甲類二組

小松 淺野巧美 石川

府中 河本重藏 廣島

修道 新井吾六 廣島

今治 菅俊夫 愛媛

神戶第二 石光 葆 廣島

廣島第一 菊地武雄 福島

京都第一 伊保木啓三 京都

廣島第一 佐伯保 廣島

高松 植松正久 香川

廣島第一 佐田健一 山口

廣島第一 江本哲雄 山口

青森八戸 高井彌 靜岡

修道 岡田勤 廣島

柳井 建林正喜 山口

廣島第一 奧村堯 廣島

廣高師附 永井治郎 廣島

三 次 加藤政一 廣島

朝鮮釜山 灘井巖 廣島

鶴岡 加納利忠 福井

忠海 西原真良 廣島

廣島第一 引地富男 廣島

廣島第一 山田秀雄 東京

廣島第一 廣實正 廣島

高松 山本義明 香川

高師附廣 深田毅 福島

岩國 湯川龍造 廣島

廣島第一 藤田正夫 廣島

日影館 橫山文三 廣島

京都第一 船越健二 京都

柳井 吉木一夫 山口

上野 三谷久男 三重

廣高師附 賴董二 廣島

廣島第一 本崎淹己 廣島

大邱 李永植 朝鮮

三 次 森脇幸次 廣島

文科第二學年乙類

吳 青森和雄 廣島

茨木 伊藤一郎 大阪

廣高師附 秋本敏夫 山口

廣島第一 伊藤謙爾 廣島

朝倉 飯田秀世 福岡

新河 井上梯次 香川

廣高師附	德島	廣高師附	山陽	修道	崇德	廣高師附	廣島第一	廣高師附	關西學院	廣島第一	修道	三	西條農業
大下直次郎	大谷志氣夫	岡崎俊夫	吉川鼎	倉本剛三	國近貞男	藏田藏	黒川術	黒田豊次	才木正巳	兒玉士清	酒井節司	坂田正五	
廣島	德島	廣島	廣島	廣島	廣島	福岡	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島

德島	廣高師附	三	京都第三	廣高師附	麻布	天王寺	廣島第一	忠海	周防	長崎	修道	廣陵
篠原憲一	下村登	關重夫	高屋浩之助	立川竹次	鶴見達三	中村清次郎	野口英一	白羽幸雄	廣中英太郎	日浦石雄	平瀬敏夫	藤谷賜
德島	廣島	香川	京都	廣島	長野	大阪	鳥取	廣島	山口	大分	廣島	愛知

理科第二學年甲類

第三神戶	湘南	廣島第一	廣高師附	府中
福本克巳	富士川英郎	寶神嗣雄	正木又男	松山軍一
廣島	廣島	廣島	廣島	廣島

防府	廣高師附	山陽	廣島第一	第二岡山
宮宗丈夫	三登義雄	山形桂太郎	山手俊郎	和栗博
廣島	廣島	福井	廣島	岡山

吳	和歌山	廣高師附	山口	今宮	吳
相川博	有本欣二	石原虎一	伊東弘	大川富雄	岡順一
廣島	和歌山	廣島	山口	大阪	廣島

修道	三	廣高師附	和歌山	廣島第一
小田廣美	奧田周策	折田良隆	木下敏之	熊野勇喜雄
廣島	廣島	廣島	廣島	和歌山

今治	今治	京都第二	府中	岩國	廣島第一	北條	神戶第二	欽傍	廣島第一	崇徳	廣島第一	修道
杉一誠	高田雄之	伊達丞夫	伊達德美	田中屋久吉	谷原一義	玉井英雄	津田晃	津田昇兵衛	中川哲三	中原治	檜村邦雄	西谷民雄
愛媛	廣島	廣島	廣島	山口	廣島	愛媛	兵庫	奈良	廣島	廣島	廣島	廣島

廣高師附	第二神戶	吳	今治	麻布	吳	京北	修道	廣高師附	吳	洲本	第一神戶	宮津
西村文造	橋谷吳	濱口正雄	林俊吉	原穰	廣段積	福田正雄	藤井正房	前川力	前田實	正木捨巳	水野昌夫	矢野義雄
廣島	北海道	廣島	愛媛	神奈川	廣島	廣島	山口	兵庫	廣島	兵庫	山口	京都

理科第二學年乙類

廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	廣島第一	東筑
渡邊襄	秋光健一	相澤活世	稻本晃	內田熙	江藤忠夫	大谷桃太郎	岡部政之	片山楠雄	梶山正登	城戸義人	東筑
福島	廣島	埼玉	和歌山	岡山	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	福岡	東筑

廣島第一	廣島第一	第二神戶	福山	三	東京第四	金	廣島第一	吳	松	鳥取第一
行友誠	久賀冬鯉	栗田有三	小泉三郎	佐々木六郎	末岡一男	惣津律士	高橋勳	高橋定	竹内榮次郎	田中哲之助
廣島	廣島	兵庫	廣島	廣島	山口	岡山	廣島	廣島	愛媛	鳥取

廣島第二	秋田	廣島第一	大垣	大垣	廣島第一	山口	伊都	龍山	修道
井出武忠	池田業男	平本憲雄	日比定雄	東十郎	西原敏男	名和田豊	都名迫行弘	山田采基	寺尾一幹
廣島	山形	廣島	岐阜	三重	廣島	山口	和歌山	朝鮮	廣島

文科第一學年甲類一組

山陽	廣島第一	今治	山陽	三疊	京都第三	廣高師附	京都第三	德島	京都第二	修道
井上數夫	井東正一	波邊琢一	山本貞道	藪内正勝	森田修二	森正久	森垣勉	盛岡健一	宗藤哲	丸山頼人
大分	廣島	愛媛	廣島	香川	滋賀	廣島	京都	德島	廣島	廣島

府中	修道	崇德	宮津	第二神戸	修道	修道	宇和島	廣島第二	第二神戸	修道	福山	明倫
佐藤隆徳	佐久間光三	酒井幸男	齋藤陽	窪田智	片桐勝	加島淳	越智岩夫	岡田壽之	大坪喜代太郎	大川信雄	榎並敏春	江崎猛
廣島	廣島	廣島	京都	鹿兒島	廣島	廣島	愛媛	廣島	佐賀	東京	廣島	愛知

吳宮	吳宮	龍野	山口	畝傍	府中	岡山第一	吳市立	岐阜	旭川	修道	第二岡山	田邊
宮地勉	水野幾雄	水鳥勉	滿井達	前田雄泰	平地寛次	難波正	戸田茂喜	所武雄	寺原秀正	田村清	田原貞實	新孝見治
廣島	廣島	兵庫	千葉	奈良	廣島	岡山	廣島	岐阜	北海道	廣島	岡山	和歌山

福山	村上	一三	廣島
三	次	安信	良二
廣島			
久留米商業	柳	正	實
廣島	山崎	利	基
廣島			
長府	吉倉	健	治
山口			

文科第一學年甲類二組

廣島第一	有本	正	男
和歌山			
廣島第一	岩田	良	美
廣島			
修	道	煙	石
廣島			
第一神戶	大澤	隆	清
兵庫			
第二岡山	太田	乾	
岡山			
嘉	穗	大	谷
福岡			
		秀	水

廣島第二	渡邊	英	隆
廣島			
府中	白	石	通
愛媛			
甲府	齋	藤	明
岡山			
修	道	玉	置
鹿兒島			
養正	高	善	南
朝鮮			
	相	塾	

廣島商業	岡田	五	郎
廣島			
高松	岡田	敏	雄
香川			
廣島第二	加	藤	整
廣島			
廣高師附	川	合	雅
廣島			
吳	川	木	聖
廣島			
高	松	神	下
香川			
		勝	

大洲	神野	止	才
愛媛			
京	城	釘	宮
大分			
郡	山	栗	山
奈良			
京都第三	小寺	政	太
京都			
天王寺	齋	藤	榮
大阪			
攻玉社	佐	藤	新
岐阜			
廣高師附	菅	好	雄
廣島			
修	道	惣	野
廣島			
小倉	高	橋	靖
廣島			
今	宮	武	居
長野			
吳	田	坂	實
廣島			
矢	掛	土	屋
岡山			
山	口	中	川
山口			
		清	

佐賀	賀	中	島
佐賀			
京	城	西	龜
廣島			
修	道	原	田
廣島			
廣高師附	藤	井	達
廣島			
傳習館	馬	淵	茂
福岡			
大	川	水	野
香川			
福	岡	三	野
福岡			
廣島第二	宮	川	知
廣島			
吳	宮	原	治
廣島			
廣島第一	村	合	正
岡山			
廣高師附	村	上	仁
廣島			
山	陽	山	崎
廣島			
武	生	山	田
福井			
		正	隆

高資合格 山本實雄 廣島
廣高師附 横山信之 廣島

文科第一學年乙類

第二岡山 足利義包 岡山
廣高師附 相澤孝友 埼玉
甲陽 荒木正保 東京
廣島第一 大江元 廣島
海草 大竹勝二 茨城
第一岡山 河相實 廣島
大阪桃山 川上房吉 福井
高松商業 久保隆美 香川
高松 久保孜 香川

平壤高普 申鉉 吳 朝鮮

廣島第一 倉本明 廣島
廣高師附 古武彌彦 岡山
名教 後藤武彦 大分
白杵 近藤忠 大分
岩國 重野英夫 山口
廣島第一 柴村万德 廣島
廣高師附 鈴木信次郎 廣島
三 次 高橋涉 廣島
修 道 瀧口參男 千葉

廣島第一 瀧野好曉 廣島
大連第一 立花俊雄 北海道
豊橋 田中清 愛知
和歌山 田中保隆 山口
京都 千種虎夫 高知
茨木 中山英一 滋賀
廣島第二 長戸寬美 東京
金光 花田起志二 岡山
廣高師附 増原改曆 廣島
會津 松江仁壽 福島
廣島第一 三浦廣吉 愛媛

廣高師附 水野忠敏 香川
天王寺 三宅善三 大阪
芝 三宅保之 廣島
西條 森俊二 愛媛
廣島第一 安田巖 廣島
山陽 渡邊太郎 廣島
廣高師附 佐々木利雄 廣島
廣高師附 山根泰二 廣島
山陽 木本欽吾 廣島
廣島第一 藤井英麿 廣島
廣島第二 吉村三次 廣島

理科第一學年甲類

廣高師附	赤松民也	廣島
廣島第一	荒木義彦	廣島
修道	池田接治	廣島
高松	石田二郎	愛媛
京城	伊藤英一	東京
廣島第一	岩宮登	廣島
奉天	大澤喜勇	愛知
京都第一	岡川吉富	京都
第一岡山	小野昌一	岡山
熱田	小原誠	東京
吳	勝田敏治	廣島
廣島第一	久保隆雄	廣島
吳	小池富男	廣島

山口	金野逸郎	宮城
廣島第一	佐伯精之	廣島
西條	篠原敏夫	東京
京都第三	志茂山貞二	京都
市岡	杉江重雄	大阪
廣島第一	數納勳郎	廣島
廣高師附	多田義雄	廣島
廣島第一	玉岡忍	廣島
廣島第一	玉木福宜	廣島
第一神戸	塚本成之	大阪
今宮	西川政一	大阪
山陽	西谷國雄	廣島
吳	野間元誠次	廣島

理科第一學年乙類

修道	廣田春一	廣島
修道	福井經彦	廣島
海草	前田貞美	和歌山
修道	松本彌	廣島
和歌山	南方四郎	和歌山
廣高師附	三宅修三	廣島
大連第一	三宅正	廣島
京都第一	八木貞之助	京都

德山	山縣次郎	山口
德山	山縣泰	山口
京都第二	湯川半三郎	京都
米子	吉井隆	熊本
平壤	李明熙	朝鮮
田邊	竹中英三郎	和歌山
平壤高普	金東煜	朝鮮

廣島第一	青木久司	廣島
山陽	青柳正一	福岡
崇徳	秋山頼光	廣島

廣高師附	蘆原貞男	廣島
廣島第一	荒瀬俊輔	廣島
福山	石井四良	廣島

忠	吳	大	全南	萩	第一	廣島	府	松	三	松	吳
海	洲	洲	光州	第一	廣島	中	山	次	山	山	福
植木保生	內坂壽	大槻俊雄	金義變	柴田敏夫	庄山俊夫	妹尾泰然	塚本二郎	高橋浩之	高橋卯	土屋薰	山
廣島	島根	愛媛	朝鮮	山口	三重	廣島	愛媛	廣島	愛媛	廣島	廣島

廣島	京都	高	京都	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	吳
第一	第一	松	第一	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	天王寺
新本勇夫	西垣又四郎	萩島茂	濱田穰	原良太郎	福永融	藤卷直意	前川重和	古野升	前田哲夫	樹田忠雄	松田鎮雄
廣島	京都	茨城	岡山	廣島	廣島	新潟	和歌山	大阪	岡山	大阪	廣島

二 卒業生

昭和二年三月十日卒業(第一回)

文科甲類

京都	廣島	忠	廣島
第一	第一	海	第一
湊正男	宮地重樹	望月紀之	本永正樹
秋田	廣島	廣島	廣島

宮	廣島	廣島	廣島	鏡城
津	第一	第一	第一	高
吉田清史	河野義光	今井岸真	高在珣	池東浣
京都	廣島	廣島	朝鮮	朝鮮

京都	京都	京都	京都	東京
法	經	經	經	經
蘆田英雄	東田以德	安藤忠雄	石井英夫	伊藤秋生
兵庫	廣島	廣島	廣島	廣島

京都	京都	東京	東京	東京
文	經	經	法	法
伊藤員馬	井上正作	牛尾二郎	字都宮壽	小川清矣
廣島	兵庫	廣島	愛媛	愛媛

京都經	京都法	京都文	東京法	京都法	東京經	京都經	東京經	東京經	東京經	京都文	京都經	立本
廣澤健二	平賀五男	原田正雄	原田正	林友壽	橋本三三	新延譽一	中東實	富狭工	辻完	谷本勉	田中實稻	肇
富山	廣島	廣島	兵庫	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	高知	廣島

東京法	東京法	京都文	東京經	京都經	東北法文	京都經	東京經	東京經	東京經	京都法	東京文	廣谷千代造
山口一夫	山川肇	森田正輝	村上哲夫	宮下弘史	三井真一朗	松本信一	松本休次郎	松室達雄	間島整治	堀川八郎	藤永龍雄	廣島
廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	愛知	山口	京都	兵庫	香川	廣島	廣島	廣島

東京法	京都文	京都法	東京經	東京文	東京經	京都經	京都法	東京法	東京法	東京文	京都法	京都經
小松正次郎	小日向恒夫	後藤文雄	古賀要	栗宗繁	木地雄吉	北彰	岸本文博	數山英一	河野光男	太田音次郎	大久保忠昌	小野田五男
高知	東京	廣島	福岡	廣島	大阪	廣島	福岡	富山	廣島	岡山	靜岡	宮崎

東京法	京都經	京都經	東京經	東京經	東京經	京都經	東京法	東京法	東京法	東京法	京都法	京都法
田島義治	田坂省三	高浦慣爾	關口勝太郎	杉丙三	末盛術	末田豐	重野覺	湖村浪雄	佐々木勇藏	篠村周三	佐伯弘	近藤常夫
神奈川	山口	廣島	廣島	山口	廣島	東京	山口	山口	大阪	廣島	廣島	香川

京都經 山本 昭 廣島

東京文 和田庸三 滋賀

文科乙雄

九州法文 伊藤日出雄 廣島

東京法 久留島 孜 廣島

京都文 岩根保重 山口

東京經 兒島義彦 廣島

東京法 衛藤干城 大分

京都經 酒井正夫 廣島

京都文 奧平英雄 廣島

東京法 佐藤秀雄 廣島

京都文 大角良雄 大阪

京都文 下程勇吉 廣島

京都文 加計敏吉 廣島

京都經 宗義三太 福岡

東京法 勝矢 中 廣島

東京法 武田邦雄 廣島

川島正亮 廣島

東北法文 垂水 巖 大分

京都法 木村幸一 廣島

東京法 德永秀夫 廣島

京都文 楠木保 廣島

京都文 土家良夫 京都

理科甲類

京都法 戶野原史朗 廣島

京都文 富士川義彦 廣島

東京法 長岡彌一 廣島

京都經 松岡 功 大分

京都經 中川 壽 廣島

京都經 松田堅三 鹿兒島

京都文 古谷省三 山口

東京經 三上 新 廣島

京都文 平田 弘 熊本

京都經 村上勝三 廣島

京都經 福島 武 東京

京都經 村上 弘 山口

九州法文 福田幹雄 山口

京都文 横田千二 大分

足立 忠 北海道

東北理 岡村 確 廣島

東京農 池内貞慶 廣島

九州農 大熊義一 兵庫

京都農 今村 新 廣島

東京工 川崎辰國 廣島

東京理 打海秀夫 廣島

京都經 川瀬秀夫 廣島

東京理	神田	清	愛知
東京農	倉茂英次郎	新潟	
九州農	貫田武	廣島	
東京工	立道啓三	廣島	
東京工	穴戸修	廣島	
東京工	杉浦正美	靜岡	
東京工	仙頭忠	廣島	
京都工	竹内元一	廣島	
京都文	田中政吾	廣島	
	田中良太郎	滋賀	
	玉木義彦	廣島	

理科乙類

東京農	寺田庄次郎	廣島
	辻康彦	廣島
京都經	長坂世雄	廣島
東京農	根本廣明	福島
東京工	牧島五郎	山口
京都理	松本德智	廣島
東京工	水野嘉勝	廣島
岡山醫	山崎三省	廣島
東北理	高木通泰	廣島
	中川政信	廣島
長崎醫	永田友諒	長崎
京都醫	鍋島尙三	廣島
京都理	林彌兵衛	山口
九州醫	羽山秀雄	廣島
京都醫	東田巧	廣島
京都醫	福井正雄	山口
	松本孝雄	岡山
東北理	宮本義男	山形
九州工	行友憲次	山口
京都農	波多野克巳	廣島

京都醫	荒田三郎	山口
	有吉三男	山口
京都農	粟屋一步	廣島
	岡田琢郎	廣島
長崎醫	大谷義夫	廣島
	川本悟	廣島
京都醫	川本重雄	廣島
九州法文	金應銖	朝鮮
長崎醫	熊巳四郎	廣島
	藏本養三	廣島
	近藤達雄	廣島
	佐々猛	岡山
九州醫	杉岡直登	廣島

東北理	高木通泰	廣島
	中川政信	廣島
長崎醫	永田友諒	長崎
京都醫	鍋島尙三	廣島
京都理	林彌兵衛	山口
九州醫	羽山秀雄	廣島
京都醫	東田巧	廣島
京都醫	福井正雄	山口
	松本孝雄	岡山
東北理	宮本義男	山形
九州工	行友憲次	山口
京都農	波多野克巳	廣島

三 在學者本籍府縣別表

府縣名	文科	理科	計
三 奈 栃 茨 千 埼 新 長 兵 神 大 京 東 北			
重 良 木 城 葉 玉 湯 崎 庫 川 阪 都 京 道			
	一 三 一 一 二 四 一 一 九 一 八 六 八 二		
	三 一 一 一 一 一 一 一 七 一 六 〇 六 一		
			四 四 二 二 三 五 二 一 六 一 四 六 四 三

府縣名	文科	理科	計
廣 岡 島 鳥 宮 石 福 秋 山 岩 福 宮 長 岐 滋 靜 愛			
島 山 根 取 山 川 井 田 形 手 島 城 野 阜 賀 岡 知			
	一 六 四 一 六 一 四 二 一 六 一 一 五 一 二 四 一 三 四		
	一 三 五 六 一 五 一 一 一 一 一 一 二 一		
			二 九 九 二 一 九 二 二 六 一 一 一 六 二 二 五 三 三 五

山	和	德	香	愛	高	福	大	佐	熊	鹿	朝	計
山口	島	川	媛	知	岡	分	賀	本	島	鮮	兒	
二二	三五	四三	一五	一四	三五	八三	二五	二二	二二	一五	△	△三四六
一二	一九	一一	一二	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	△	△二四三
三四	四四	一五	二七	三一	一五	二五	二二	二三	二二	二二	△	△五二四

備考 △印ハ聴講生ニシテ内數ナリ

四 入學者學歷別表

五 生徒年齢別表

種別	最高年齢	最低年齢	平均年齢	科別			年度別		計
				文科	理科	計	昭和	大正	
新入生	三三、一月	一六、二月	一七、六月	—	—	—	—	—	—
第一學年	三三、一月	一六、二月	一七、六月	—	—	—	—	—	—
第二學年	三三、二月	一七、二月	一八、五月	—	—	—	—	—	—
第三學年	三五、一月	一七、九月	一九、五月	—	—	—	—	—	—
中學四年修了	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中學卒業	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

六 卒業生大學進入表 (昭和二年)

種別	文科卒業者		理科卒業者		合計
	甲類	乙類	甲類	乙類	
東大法學部法律學科	九	二			一一
同 政治學科	六	一			七
東大經濟學部經濟學科	〇	一			一
同 商業學科	二				二
東大文學部美學科	一				一
同 心理學科	一				一
同 教育學科	一				一
同 支那哲學科	一				一
東大工學部機械工學科			二		二
同 建築工業科			一		一
同 電氣工學科			一		一
同 造船工學科			一		一
同 船舶工學科					
合計	一五	三	三	一	一五

東大理學部數學科	一								
同 天文學科	一								
東大農學部農業經濟學科									
同 農藝化學科									
同 水產學科									
京大法學部		七							
京大經濟學部		二							
京大文學部英文學科		三							
同 國文學科		三							
同 史學科		五							
同 哲學科		二							
京大工學部探礦學科									
京大醫學部									
京大農學部農學科									
同 林農學科									
京大理學部物理學科									
東北法文學部									
合計	二	二	一	一	五	一	七	三	四

東北理學部	數學科	1																			
同	物理學科	1																			
同	生物學科	1																			
九	大法文學部	2																			
九	大醫學部	1																			
九	大工學部造船學科	1																			
九	大農學部農學科	1																			
同	農藝化學科	1																			
岡	山醫大	1																			
長	崎醫大	1																			
其	ノ他	7																			
合	計	64	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		三四	一																		
		九八	八																		
		二九	七		一	一	一														
		二五	八	三					一	二	一	一	一								
		五四	一	五	三	一	一	一	一	二	一	一	一								
		一五二	二	三	三	一	一	一	一	二	三	一	一								

第七 關係法規

一 高等學校令

大正七年十二月六日
勅令第三百八十九號

第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス

第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス

第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス

第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條 高等學校ハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス

專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタルモノ又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ
一學級ノ生徒定數ハ四十人以上トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異なる生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タ

ルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セル者ヲ以テ之ニ充ツコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス
前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス
高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

二 高等學校規定 (抄)

(大正八年三月二十九日 文部省令第八號)
(大正十四年五月 文部省令第十七號改正)

第一章 學科課程及教科書

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル

事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ智識ヲ授クヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル智識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル智識ヲ得シメ思考ヲ假練セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル智識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル智識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル智識ヲ得

シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖畫ハ形態ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ鍊リ思考ヲ精確ナラ

シムルヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ

尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學 科 目	學 年		
	第 一 學 年	第 二 學 年	第 三 學 年
修 身	一	一	一

計	國語及漢文			第一外國語			第二外國語			地 理	歷 史	哲 學 概 說	心 理 及 論 理	法 制 及 經 濟	數 學	自 然 科 學	體 操
	六	九	(四)	三	二	三	三	二	二								
(三三)	二九	二九	二九	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
(三三)	二九	二九	二九	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
(三三)	二八	二八	二八	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三三)	(三三)	(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	一
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	(四)

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
物理		三	三
化學		三	三
植物及動物	二	二	(講義) 二 (實驗) 三
礦物及地質	二		(講義) 二 (實驗) 三
心理		二	
法制及經濟	二		
圖畫	二	二	(三)
體操	三	三	三
計	(二八)	(二八)	(二八)

第三學年ノ數學〔二〕及圖畫〔二〕ト第三學年ノ植物及動物〔講義二實驗二〕トハ

生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム

此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三〇)	(三一)	(三一)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節 專攻科

第二十一條 專攻科ノ學科目ハ左ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ
國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、礦物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ趣旨ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民

道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス
各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上、高等科ニ在リテハ每學年二百日以上、專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事

情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限リニアラス
試験及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲ス
コトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式
ヲ行フヘシ

第三章 編 制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル
場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、
數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時
ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數並專任教員及兼任教員ノ割合ハ文部大
臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道又ハ柔道ノ教授ヲ擔任スル教員
ハ前條ノ定數外トス

第四章 設 備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タル
ヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室
等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

- 一 學則、日課表及教科用圖書配當表
- 二 職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表

三 生徒學籍簿、出席簿、身驗檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類

四 試驗ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第三十九條 當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ

第四十條 他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算

術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ試驗ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム
當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數尋常科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ル試驗ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

第四十一條 尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試驗ニ依リテ之ヲ檢定スヘシ

第四十二條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

- 一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者
 - 二 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
 - 三 専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
 - 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
 - 五 文部大臣ニ於テ一般ノ専門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得
- 第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格検査ヲ行ヒ之ヲ合格シタル者ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限リニ在ラス

- 第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
- 前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ
- 第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限リ試験ニ依ラサルコトヲ得
- 第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得
- 第四十九條 高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得
- 第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ

・學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得
試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ、專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ、尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ
第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタル者
- 五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第八章 雜 則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五 授業料、入學料等ニ關スル事項

第五十九條 私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス
高等中學校規程、明治四十一年文部省令第九號、高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ハ之ヲ廢止ス

(參照)

明治四十一年文部省令第九號ハ高等學校大學豫科入學者ニ關スル件ナリ

三 文部省直轄諸學校官制(抄)

明治二十六年八月二十五日
勅令第八十六號

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

廣島高等學校

(大正十二年十二月十日
勅令第五百一號改正)

(他校ハ畧ス)

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
教授
生徒監
助教
書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ公務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

四 文部省直轄諸學校職員定員令(抄)

明治三十五年三月二十八日勅令第九十九號
大正十二年十二月十日勅令第五百九十二號改正
大正十三年四月二十八日勅令第九十八號改正
大正十四年四月二十五日勅令第四百三十三號改正
大正十五年七月五日勅令第二百四十九號改正

文部省直轄諸學校專任教員ノ定員左ノ如シ

廣島高等學校	一	校長	三十人	教授	四人	助教授	六人	書記
--------	---	----	-----	----	----	-----	----	----

五 陸軍現役將校學校配屬令

大正十四年四月十一日
勅令第三百三十五號

第一條 官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、高等學校、大學豫科、專門學校、高等師範學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所又ハ實業補習學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他己ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第二條 私立ノ中學校、實業學校、高等學校、大學豫科若ハ專門學校又ハ徵兵令第十三條第一項第二號ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケタル私立學校ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲當該學校ノ申請ニ因リ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ將校ヲ配屬スル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

大學々部ノ申出アルトキハ前二項ノ規定ニ準シテ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコト

ヲ得

第三條 陸軍大臣及文部大臣ハ特別ノ事由アルトキハ本令ニ依ル將校ノ配屬ヲ止ムルコトヲ得

第四條 陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ査閲セシムルコトヲ得

第五條 官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學校ニハ第一條ノ規定ニ拘ラス將校ヲ配屬セサルコトヲ得

尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ實業學校以外ノ實業學校、修業年限二年未滿ノ實業補習學校教員養成所及夜間ニ於テ教練ヲ課スル學校ニ付テハ第一條及第二條ノ規定ヲ適用セス

第六條 配屬將校傷痍疾病其ノ他己ムヲ得サル事故ニ因リ服務シ難キトキハ陸軍大臣ハ文部大臣ト協議シテ他ノ現役將校ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條又ハ第二條ニ規定スル學校ニシテ徵兵令第十三條第一項第二號ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケサルモノ及大正十四年二月一日以後ニ於テ設立シタルモノニハ當分ノ内將校ヲ配屬セサルコトヲ得

六 官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程

(大正八年四月十九日文部省令第十四號
大正十五年十月卅日文部省令第卅四號改正)

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數、選拔試驗ニ關スル細目及出願ノ手續等ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス

第三條 選拔試驗ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス但シ外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其ノ一ヲ選ハシム

前項ノ試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第四條 選拔試験ハ高等學校ヲ二班ニ分チテ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ志望學校トシテ一校ヲ指定シ又ハ他班ニ屬スル一校ヲ合セ二校

ヲ指定スルコトヲ得二校ヲ指定スル場合ニ於テハ其ノ志望ノ順位ヲ定ムヘシ
第六條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ但シ志望學校二
校ノ場合ニ於テハ各異ナル科ヲ指定スルコトヲ得ス

指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

文科甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ

文科乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

文科丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

理科甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ

理科乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

理科丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

選拔試験ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類ニ箇以上(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併
セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者
ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科

丙類又ハ理科丙類ニ限ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

七 高等學校高等科入學資格試驗規程

(大正八年三月二十九日文部省令第九號
大正十五年二月二日文部省令第七號改正)

第一條 高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試驗ヲ受ケントスル者ハ年齡滿十六歲以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試驗ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四條 專門學校入學者檢定規定第七條第二項又ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ヲ有スル者ニシテ試驗ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス專門學校入學者檢定規定第八條ニ依リ試驗ヲ免除セララルル者ニ付亦同シ

第五條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 高等學校高等科入學資格試驗ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第七條 中學校ニ於テハ本令ノ試驗ニ付試驗手数料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

八 專門學校入學者檢定規程

(明治三十六年三月卅一日文部省令第十四號)
大正十四年九月二日文部省令第三十六號改正)

- 第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ本令ニ依リ學力檢定ヲ受クヘシ
- 第二條 檢定ヲ分チテ試驗檢定及無試驗檢定トス
- 第三條 試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行フ
- 試驗檢定ノ出願期限、試驗執行ノ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ告示ス
- 第四條 試驗檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサル事ヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク
- 第五條 試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ受験願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ受験地ノ地方廳ヲ經由シ文部大臣ニ願出スヘシ

- 一 履歷書(第二號書式)
- 二 戶籍抄本
- 三 寫眞(手札形トシ出願前三月以内ニ脱帽ニテ撮影シタルモノニシテ裏面ニ撮影年月日、本籍氏名ヲ記載スヘシ)
- 四 第七條第二項ニ依ル證明書ノ寫又ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ノ寫
- 五 第八條ノ資格ヲ證明スル書面
- 第六條 試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ手数料トシテ金七圓ヲ納付スヘシ
- 第七條 試驗檢定ニ合格シタル者ニハ合格證書(第三號書式)ヲ交付ス
- 試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セサルモ受験學科目中合格點ヲ得タルモノアルトキハ其ノ證明書(第四號書式)ヲ交付ス
- 前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ試驗檢定ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試験ヲ免除ス

前項ノ規定ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ヲ有スル者ニ付之ヲ準用ス

第八條 試驗檢定ノ學科目中一科目又ハ數科目ニ就キ中學校若ハ修業年限四年ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト認ムル者ニ對シテハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス

第九條 合格證書ヲ有スル者其ノ氏名本籍ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ合格證書ノ書換若ハ再交付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條 試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止シ尙期間ヲ定メテ試驗ヲ受ケシメサルコトアルヘシ

大正七年文部省令第三號高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件第八條ニ依リ試驗ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止セラレタル期間本令ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト後日發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 無試驗檢定ハ當該專門學校ニ於テ入學ノ際之ヲ行フ

無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ハ文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四年ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者ニ限ル

前項ノ指定ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用ヒ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ專門學校入學者試驗檢定施行ニ關スル手續ヲ開始シタルモノニ在リテハ當該試驗檢定ニ關シ仍從前ノ規定ニ依ル

第一號書式(用紙半紙)

受 驗 願 書

收 入
印 紙

本 籍

現 住 所

外國語ノ種類

氏

年 月 日 生

名

免除學科目

私儀専門學校入學者檢定規程ニ依ル試験相受度書類ヲ具シ此段相願候也

年 月 日

右

氏

名 印

文 部 大 臣 宛

(記載注意)

- 一 外國語受驗ノ場合ハ其ノ種類(英語、獨語又ハ佛語)ヲ明記スヘシ
- 二 免除學科目アル場合ハ其ノ學科目名ヲ記載スヘシ
- 三 出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ付スヘシ

第二號書式(用紙半紙)

履 歷 書

本 籍

氏

年 月 日 生

名 印

學 業

一 年 月 何學校何科第何學年ニ入學年月卒業(目下在學中)

一 年 月 何年度施行専門學校入學者試験檢定ニ於テ何學科目證明書受領

一年月 何教員免許状受領

業 務

一年月 何官職拜命若ハ何業ニ従事、年月何事由ニ依リ退官職若ハ廢業

賞 罰

一年月 何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク

身上ニ關スル事項

一年月 何事由ニ依リ何ト改氏名等

(記載注意)

一 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スヘシ

二 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スヘシ

三 身上ニ關スル事項ハ本籍氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

第三號書式

昭和 年 第 號

合 格 證 書

本 籍

氏 名

年 月 日 生

右ハ專門學校入學者檢定規定ニ依ル試験檢定ニ合格シタルコトヲ證ス

年 月 日

文 部 省 印

第四號書式

證 明 書

本 籍

氏 名

年 月 日 生

右ハ專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ於テ左記學科目ニ就キ合格點ヲ得タルコトヲ證明ス

年 月 日

文 部 省 印

試験檢定施行年月	合格點ヲ得タル學科目

九 文部省直轄學校外國人特別入學規程

明治三十四年十一月十一日
文部省令第十五號

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省、在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 本令ノ規程ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規程ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料、入學料及授業料ヲ徴收

セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタルモノト看做ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

十 臺灣又ハ朝鮮人ニ外國人特別入學規程準用ノ件

明治四十四年四月四日
文部省令第十六號

文部省直轄學校外國人特別入學規程ハ臺灣人若クハ朝鮮人ニ之ヲ準用ス但シ其ノ入學ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

十一 高等學校教員規程

(大正八年三月二十九日文部省令第十號)
(大正十五年八月廿七日文部省令第廿九號改正)

第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス

第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高等學校高等科教員養成ニ關スル規程ニ依リ教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合格シタル者ト看做ス

文部省外國留學生規程ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有スル者亦同シ

第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀ハ當該學科目ニ關シ高等學校尋常科教員免許狀タルノ効力ヲ有ス

第四條 教員檢定ハ受験者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ

第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身 國語 漢文 英語 佛語 獨語 日本史及東洋史 西洋史 地理 哲學概說
心理及論理 法制及經濟 數學 物理 化學 植物 動物 地質及鑛物 圖畫

前項ノ學科目ニ就キ試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テ第九條第六號ノ受験者ニ對シテハ檢定ヲ受ケントスル學科目ニ併セ本人ノ選擇ニ依リ英語、佛語、獨語ノ中一科目ニ就キ其ノ學力ヲ試驗スルモノトス但シ本人カ英語、佛語又ハ獨語ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルトキ又ハ檢定ヲ受ケントスル學科目カ英語、佛語、獨語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テハ受験者出願ノ學科目ノ試驗ニ附隨シ其ノ教授法ヲ試驗スルモノトス

第七條 試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限及試驗ヲ行フヘキ學科目ハ文部大臣之ヲ告示シ試驗施行ノ期日及試驗ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

- 一 履歷書(第二號書式)及學業證書若ハ免許狀ノ寫
- 二 第九條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書(第三號書式)
- 三 醫師ノ身體檢查書(第四號書式)
- 四 戶籍抄本

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 學位ヲ有スル者
- 二 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者
- 三 高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修業年限二年ノモノヲ除ク
- 四 專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者
- 五 高等學校、大學豫科又ハ學習院高等科及元高等學科ヲ卒業シタル者
- 六 當該學科目ニ關シ中學校教員免許狀ヲ有スル者

- 七 外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者
- 八 外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者
- 九 五年以上大學、大學豫科、高等學校、專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タリシ者

前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 前條第一項第一號、第二號及第九號ニ該當スル者
- 二 高等師範學校專攻科若ハ之レニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者
- 三 元東京高等商業學校專攻部ヲ卒業シタル者
- 四 本邦ニ於テ高等學校若ハ之ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位又ハ卒業證書ヲ有スル者

第十一條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケントシタル者及試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第十二條 高等學校專攻科教員ニ付テハ免許狀ヲ要セス

公立及私立ノ高等學校ニ於テ專攻科教員ヲ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十四條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス

第十五條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第十六條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十三條ノ規定ニ依リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具

シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 高等學校尋常科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限リ第三條ノ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ後三年間ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十三條ノ制限ヲ超エ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令施行前文部省直轄學校ノ勅任又ハ奏任ノ教官タリシ者ハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第一號書式 (用紙美濃紙)

高等學校高等科教員檢定願

印 收 入
紙 入

本 籍
現 住 所
受 驗 資 格
族 稱

學 科 目

第五條第二項ノ選擇外國語

私儀高等學校高等科教員志願ニ付前記學科目ノ試驗(無試驗)檢定相受度此段相願候也

年 月 日

右

文 部 大 臣 宛

氏

名 印

(記載注意)

- 一 族稱ハ華士族ニ限り記載スヘシ
- 二 受驗資格ハ最主要ノ事項ノミヲ記載スヘシ

年 月 日 生 名

三 出願者氏名ノ漢字ニ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式 (用紙美濃紙)

履 歷 書

氏

年 月 日 生 名

學 業

一 年 月 日 何學校何科第何學年ニ入學、年月日卒業

一 年 月 日 何教員免許狀受領

業 務

一 年 月 日 何官職拜命若ハ何業ニ從事、年月日何事由ニ依リ退官職若ハ廢

賞 罰

一 年 月 日 何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク

身 上 ニ 關 ス ル 事 項

一 年 月 日 何事由ニ依リ何ト改氏名等

年 月 日 以上

右

氏

名印

(記載注意)

- 一 學業ハ受験資格ニ關係アル事項ニ限リ記載スヘシ
- 二 教員免許狀ハ別紙ニ其ノ寫ヲ添付スヘシ
- 三 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スヘシ
- 四 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スヘシ
- 五 身上ニ關スル事項ハ族稱氏名等ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

第三號書式

證明書

本籍

氏

年月日生名

名印

何學(校、館、所)長 氏

右ハ年月日本學(校、館、所)何部(科)第何學年ニ入學シ年月日同部(科)ヲ卒業セシ者
 (試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者)ナルコトヲ證明ス

年 月 日

第四號書式 (用紙美濃紙)

身體檢查書

現住所

氏

年月日生名

- 一體格
- 一身長
- 一體重
- 一胸圍
- 一中心視力
- 一色盲
- 一眼病

一聽力

耳疾

一呼吸器

一神經系

一皮膚

一言語

一既往現在ノ疾病又ハ畸形

右検査候處相違無之候也

年 月 日 検査

現住所

醫師 氏

名印

(記載注意)

検査ノ表記及身長體重胸圍聽力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒及幼兒身體検査規程ニ準據スヘシ

附 錄

一 廣島高等學校々友會々則

第一條 本會ハ廣島高等學校職員生徒協同融和シテ心身ノ修養ヲ圖リ善美ナル校風ヲ發揚スルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ廣島高等學校々友會ト稱ス

第三條 本會々員ハ左ノ二種ヨリ成ル

- 一 通常會員 本校生徒
- 二 特別會員 本校職員

第四條 本會ニ左ノ諸部ヲ置キ本會々員ハ少クトモ其ノ一部ニ入ルヘキモノトス

- 一 辯論部
- 一 文藝部
- 一 劍道部

- 一 柔道部
- 一 弓道部
- 一 蹴球部
- 一 野球部
- 一 庭球部
- 一 陸上競技部
- 一 水泳部
- 一 漕艇部
- 一 旅行部
- 一 乗馬部
- 一 相撲部

第五條 各部ノ規則ハ各部ニ於テ之ヲ定メ會長ノ認可ヲ受クヘキモノトス
 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 會長 一名 學校長ヲ推戴ス 會務ヲ總理ス
- 一 理事長 一名 特別會員中ニツキ會長之ヲ委囑ス
 會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ掌理ス
- 一 部長 各部一名 特別會員中ニツキ會長之ヲ委囑ス
 其ノ部ノ事務ヲ監理ス
- 一 理事 文科理科各一名 通常會員ノ互選ヲ經テ會長之ヲ委囑ス
 庶務ノ常務ニ任ス
- 一 委員 各部若干名 各部員ノ互選ヲ經會長之ヲ委囑ス
 當該部ノ常務ニ任ス但シ各部委員ハ三部以上ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 一 級代議員 各組一名 役員會ニ列シ又代表者ヲ出シテ豫算案ノ作製ニ關與ス
 但シ部委員ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 一 事務員 若干名 特別會員中ニツキ會長之ヲ委囑ス會長ノ命ヲ受ケ庶務會計
 ヲ掌ル

同一人ニシテ二部以上ニ部長タル場合ニハ其ノ部ニ副部長ヲ置クコトヲ得
副部長ハ特別會員中ニツキ會長之ヲ委嘱ス

第七條 理事、委員及級代議員ノ任期ハ一年間トス

理事委員ハ毎年十一月級代議員ハ毎年四月之ヲ改選ス但シ第一學年ニ於ケル級代議員ノ選舉ハ五月ニ於テ之ヲ行フモノトス

第八條 本會ノ會費入會金左ノ如シ

通常會員ハ會費トシテ第一學年ハ年額金貳拾圓（第一學期ニ金五圓第二學期ニ金拾圓第三學期ニ金五圓）第二學年ハ年額金拾五圓（第一學期ニ金五圓第二學期ニ金五圓第三學期ニ金五圓）第三學年ハ年額金五圓ヲ授業料ト共ニ本校會計課ニ納付スルモノトス

特別會員ノ會費ハ別ニ之ヲ定ム

通常會員ハ入會金トシテ金五圓ヲ第一學期授業料ト共ニ納付スルモノトス
入會金ハ本會ノ費用ニ充當スルモノトス

既納ノ會費、入會金ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セサルモノトス

第九條 本會ノ會計年度ハ一月ヨリ始マリ十二月ヲ以テ終ルモノトス

第十條 毎年十二月中ニ於テ翌年度ノ歳入歳出豫算ヲ決定スルモノトス

第十一條 毎年一月中ニ於テ理事長及前年度理事ハ前年度ノ決算ヲ報告スヘキモノトス

第十二條 本會豫算案ハ各部ヨリ提出シタル原案ニ基キ理事長理事及級代議員代表者（文科三名理科二名）ニ於テ之ヲ作製ス

第十三條 役員會ハ前條ニヨリ作製セラレタル豫算案ニ基キテ當該年度ノ豫算ヲ議定ス

役員會ハ理事長、部長、理事、委員（各部一名）及級代議員ヨリ成リ其ノ議定ハ會長ノ許可ヲ經テ效力ヲ生スルモノトス

第十四條 重要ナル會務ニツキテハ會長之ヲ必要ト認メタル場合若ハ會員ノ五分ノ一以上ノ申出アリタル場合ニ於テ役員會ノ議ニ付セラルヘキモノトス

定足數ハ役員ノ三分ノ二以上トシ表決數ハ過半數トス

第十五條 本會ノ會計ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本會々則ノ變更ハ役員會ノ決議ヲ經テ會長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

二 廣島高等學校同窓會規約

第一條 本會ハ會員相互ノ親睦及母校トノ親密ナル連絡ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ヲ廣島高等學校同窓會ト稱ス

第三條 本會々員ヲ分テ左ノ二種トス

一 正會員 母校卒業生

一 特別會員 母校職員及舊職員

第四條 本會ハ本部ヲ母校ニ支部ヲ各帝國大學所在地ニ置ク

但役員會ノ承認ヲ經テ適當ノ地ニ支部ヲ設置スルコトヲ得

第五條 本會ノ目的ヲ達センカ爲左ノ事業ヲ行フ

一 會員ノ動靜母校ノ近況ヲ報知スル機關雜誌及會員名簿ヲ頒ツ

一 卒業後三年間校友會雜誌ヲ頒ツ

一 毎年一回總會ヲ母校ニ開ク